

# 佐賀大学国際交流推進センター 平成29年度 年次報告書

---

Annual Reports of Center for Promotion of International Exchange  
Saga University April 2017- March 2018



佐賀大学

# ANNUAL REPORTS

# 目 次

I. 国際交流ネットワーク	2
1. 学術交流協定	2
2. 海外ネットワークの構築と情報発信	2
2.1 佐賀大学海外版ホームカミングデー in 北京	
2.2 佐賀大学プロモーション in 北京	
3. 佐賀大学友好特使の委嘱と活動	7
II. 学生交流	9
1. 留学生受入れ	9
1.1 留学生受入れの概況	
1.2 佐賀大学短期留学プログラム (SPACE)	
1.2.1 SPACE-E 実施報告	
1.2.2 SPACE-J 実施報告	
1.2.3 SPACE-ARITA 実施報告	
1.3 平成29年度日本語・日本文化研修コース	
1.4 平成29年度日本語研修コース	
1.5 Saga University Autumn Program (SUAP) 2017	
1.6 香港中文大学学生交流プログラム (短期受入れ)	
1.7 留学生交流支援事業	
1.7.1 短期留学生受入れ支援事業	
1.7.2 特別聴講学生・特別研究学生等学習奨励費支援事業	
2. 学生の海外派遣	35
2.1 本学学生の海外派遣概況	
2.2 交換留学生の派遣	
2.3 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムによる海外派遣	
2.4 Saga University Study Abroad Program (SUSAP)	
2.5 学生の海外派遣支援 (国際化支援制度)	
2.5.1 平成29年度佐賀大学海外研修プログラム参加助成	
2.5.2 平成29年度佐賀大学学生派遣奨励費	
2.5.3 平成29年度佐賀大学学生海外研修支援事業	
3. キャンパスの国際化	53
III. 研究者交流	55
1. 国際研究集会開催支援事業	55
2. 研究者海外派遣支援事業	55
IV. 地域国際連携	58
1. 世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業	58
2. 佐賀県立武雄高校との交流	60
V. その他住環境整備等	62
1. 佐賀大学国際交流会館	62
2. その他の住環境支援	62

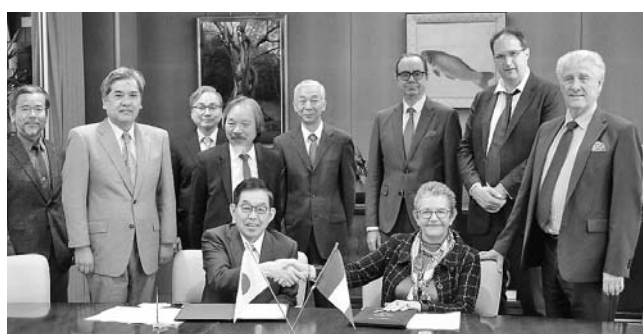
# I. 国際交流ネットワーク

## 1. 学術交流協定

平成29年度の新規大学間協定締結は1件であった。フランスのバイオ産業大学（EBI：Ecole de Biologie Industrielle）は、佐賀県と活発な交流があるヴァルドワーズ県に1992年に設置された私立のグランゼコールである。フランス最大のバイオテクノロジー専門大学院で産業界とのパートナーシップにより、高度な実践的専門教育を行なっている。EBIを卒業したエンジニアは、製薬、化粧品、食品、環境産業などで活躍している。バイオサイエンスやバイオテクノロジー分野の大学院修士課程レベルの学生交流を展開しつつ、将来的には共同研究への発展の可能性が大いに期待されることから交流協定の締結が実現した。

### 【新規】

バイオ産業大学（フランス）・私立大学・  
H29年11月6日締結



## 2. 海外ネットワークの構築と情報発信

海外ネットワークを構築・強化・掘り起すための一つの取り組みとして、佐賀大学海外版ホームカミングデーを毎年度実施している。今年度は5年ぶりに中国・北京において「佐賀大学海外版ホームカミングデー」を右記のとおり開催した。

	開催日	開催国	都市名
第1回	平成24年3月5日	ベトナム	ハノイ
第2回	平成24年9月10日	中国	杭州
第3回	平成25年8月22日	韓国	ソウル
第4回	平成27年3月10日	スリランカ	キャンディー
第5回	平成27年9月16日	インドネシア	ジョグ・ジャカルタ
第6回	平成28年2月6日	タイ	バンコク
第7回	平成29年2月11日	ベトナム	ハノイ
第8回	平成29年12月9日	中国	北京

### 2.1 佐賀大学海外版ホームカミングデー in 北京

【日時】2017年12月9日（土）14時から16時

【場所】Grand Gongda Jianguo Hotel（工大建国飯店）Jasmine Room（北京市内）

【参加者】本学出張者、協定校関係者、在北京日本機関、北京佐賀県人会、佐賀県、元留学生（35名）、中国へ留学中の日本人学生（4名）他

#### 【式次第】

- 司 会 佐賀大学学術研究協力部国際課長 成瀬 雅也  
元留学生／三井住友信託銀行北京事務所 張 金玥
- 開会挨拶 佐賀大学理事・副学長・国際交流推進センター長 寺本 憲功

- 来賓挨拶 在中国日本国大使館参事官 横井 理夫  
北京工業大学国際交流課副課長 陳 浩  
佐賀県地域交流部国際課副主査 鶴田さゆり
- 乾 杯 佐賀大学名誉教授（元佐賀大学留学生センター長） 田端 正明
- 最近の活動報告 佐賀大学学術研究協力部長 市山 郁生
- 佐賀大学中国人留学生会発足式  
挨拶：北京工業大学教授 李 徳勝  
挨拶：天津科学技術大学准教授 宋 麗紅
- 友好特使任命  
授与者：佐賀大学理事 寺本 憲功  
友好特使：北京工業大学教授 李 徳勝  
天津科学技術大学准教授 宋 麗紅
- 元留学生紹介  
王立強氏（2005年卒）、郭偉氏（2011年卒）、柴曉宇氏（2017年卒）
- 佐賀県企業紹介 久光製薬技術咨询北京有限公司 渡辺 純
- 閉会の辞 佐賀大学名誉教授（元佐賀大学学長） 佐古 宣道

### 【概要】

過日、上記日時・場所において、佐賀大学海外版ホームカミングデーが盛大に挙行された。本学からは、寺本理事・副学長をはじめ、中国の大学との協定締結時に学長を務めた佐古名誉教授、初代留学生センター長の田端名誉教授等が参加した。来賓として、協定校、在中国日本国大使館、科学技術振興機構北京代表処、北京佐賀県人会、佐賀県地域交流部国際課等から参加を得た。参加者は本学の元留学生35名を含む計67名となった。

本学の海外版ホームカミングデーは、海外の協定校との連携強化および海外在住の卒業生と佐賀大学関係者とのネットワーク構築を目的として、2012年から年1回以上開催しているもので、今回で8回目となる。中国での開催は、2012年9月の杭州開催に続いて2回目、北京での開催は初となった。

本学と中国の大学との関係は、1998年に華東師範大学、北京工業大学と学術交流協定を締結して以来、現在までに11の大学間協定と18の部局間協定を締結し、様々な分野で教育・研究の交流を深めている。これまでに本学で学んだ中国人留学生は2,000名以上に上り、大学、政府、企業等、各方面で活躍している。

寺本理事の挨拶の中で、現在本学では、留学生全体の約4割にあたる84名の中国人留学生在籍しており、国別で最多であること、中国は今後も本学にとって国際交流の最も重要な地域であることが述べられた。

続いて、来賓を代表して、北京工業大学、在中国日本国大使館、佐賀県の出席者から、今回の北京開催に対するお祝いの言葉が述べられた。

本学で学んだ中国人留学生会の発足式が行われ、初代会長の北京工業大学・李徳勝教授、世話役の天津科技大学・宋麗紅准教授から、留学生会を通じ、中国における佐賀大学関係者の連携を深めていきたい旨の挨拶がなされた。今後の留学生会の発展を期待し、寺本理事から上記2名に佐賀大学友好特使を委嘱した。

他に、市山学術研究協力部長から「最近の佐賀大学の活動報告」として、芸術地域デザイン学部の設置や重点領域の研究動向など、本学の最近の話題が紹介された。歓談中には、本学で製作した大学紹介のショートムービー等が上映され、年配の卒業生の中には、大きく変化したキャンパスの様子に驚いている者もいた。

北京佐賀県人会の渡辺氏からは、所属する久光製薬の中国における現地法人の活動について紹介があった。

最後に、佐古元学長からの挨拶の中で中国語の歌が披露され、別れを惜しみつつ再会を約し閉会となった。





友好特使任命（宋准教授）



集合写真

## 2.2 佐賀大学プロモーション in 北京

○遼寧師範大学（12月7日10時～）

### (1) 国際教育学院訪問

【当 方】寺本理事、佐古名誉教授、田端名誉教授、市山学術研究協力部長、成瀬国際課長

【先 方】朕佛国際教育学院長、李彦明国際教育学院副院長、関春影国際交流所長、宋浩国際教育学院招生主管、関岫一国際交流所職員。

- ・現在、40か国から400人の留学生を受入れている。  
うち、日本人は60人。北陸大学等から受入れている。  
本学内に北陸大学のサテライト事務所が有る（無人）。
- ・留学生寮は3つ完備しており、希望すれば誰でも入寮可能。
- ・6年前に韓国語別科を設置し、現在150人在籍している。昨年、日本語別科を設置し、現在30人在籍。
- ・イタリア・ミラノ大学と米国・ミズーリ州立大学との間に孔子学院を設置。特にミラノの孔子学院は本国が認可している約500ある孔子学院のうち、12しかない文化孔子学院に選出されている。
- ・サマースクールにはイタリア、米国、韓国からも参加がある。



### (2) 学生向け留学説明会

上記と並行して別の会場で学生を対象とした本学の留学説明会を実施した。

【説明者】出雲国際課主任、山田国際交流推進センターコーディネーター

【参加者】60名程度

#### 【内 容】

説明資料の投影及び短期留学プログラム（SPACE）案内冊子、工学系研究科案内冊子をもとに佐賀大学の概要、交換留学制度、工学系研究科の環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム（PPGA）、戦略的国際人材育成プログラム（SIPOP）等について説明した後、質疑応答を行った。学生からは、SPACEに申し込むための要件や、どういった分野の学習や研究が行えるのか、大学院生でも応募可能なのか、といった質問があった。



## (3) 学長表敬

【当 方】 寺本理事、佐古名誉教授、田端名誉教授、市山学術研究協力部長、成瀬国際課長、出雲国際課主任、山田国際交流推進センターコーディネーター

【先 方】 李雪銘学長、朕佛国際教育学院長、李彦明国際教育学院副院長、関春影国際交流所長、宋浩国際教育学院招生主管、関岫一国際交流所員

- ・(寺本理事) 2001年に協定を締結して以来、これまで貴学とは継続して学生交流が続いているが、残念ながら本学からの派遣実績が無い。また協定締結当時のコンタクトパーソンは既に定年で退職してしまっており、文化教育学部も改組になった。しかし今後とも貴学と密接な学生交流を継続していきたい。
- ・(李学長) 協定書に署名された佐古元学長を含めた貴学の代表団に再度、訪問頂いて光栄である。本学には日本で学びたい学生が多くいるので、今後とも貴学との交流関係を大切にしていきたい。日本語・中国語の習得を主軸に、学部レベルの学生交流を希望している。



## ○北京工業大学 (12月8日8時30分～)

## (1) 学長表敬

【当 方】 寺本理事、佐古名誉教授、田端名誉教授、大和教授、高助教、市山学術研究協力部長、成瀬国際課長

【先 方】 柳貢慧学長、呉敏副学長、王伟国際教育学院院長、顧春外国語学院副教授、甄芳国際課項目主管

- ・1998年12月に大学間学術交流協定締結。現在の学生交流に加え、研究者レベルでの交流を希望。

- ・『情報』・『材料』・『土木(都市工学)』・『機械』の4分野で1～2名の教員を3か月、半年又は1年間招聘したい。滞在費用や住居は北京工大が提供する。英語で講義ができれば、給与も出せる。





・学生交流について、1名の留学生に双方の大学から指導教員をつけることなどを本学から提案。

(2) 学生向け留学説明会 8:30～9:30

上記と並行して別の場所で学生を対象とした本学の留学説明会を実施した。

【説明者】 出雲国際課主任、山田国際交流推進センターコーディネーター

【参加者】 20名程度

説明内容は遼寧師範大学と同様。多くの学生が、SPACEの存在を知らなかった。また質疑応答では、佐賀大学への留学のための具体的な質問が多かったことから、このように直接協定校の学生へアピールする機会を設けることは、新たな学生交流を創出する上で有効であると感じた。



○首都師範大学（12月8日11時～）

(1) 外国語学院表敬

【当 方】 寺本理事、佐古名誉教授、田端名誉教授、大和教授、高助教、市山学術研究協力部長、成瀬国際課長

【先 方】 孔繁志外国語学院日語系主任、孫偉外国語学院日語系副教授、韓梅国際文化学院副院長、劉華湘国際文化学院項目主管、国際文化学院李鵬飛氏

1999年4月、大学間交流協定を締結。学生交流覚書が締結されていないため、学生交流なし。コンタクトパーソンは文化教育学部・深草教授（退官）。

学生交流覚書締結を見据えて意見交換を行い、実質的な交流の可能性を探った。日本語学科の学生を中心に学生交流覚書の締結に向けて実務的な協議を始めることで合意した。

(2) 学生向け留学説明会

上記と並行して別の場所で日本語学科の学生を対象とした本学の留学説明会を実施した。

【説明者】 出雲国際課主任、山田国際交流推進センターコーディネーター

【参加者】 6名

説明内容は前2大学と同様。参加者の一部は既に日本の他の大学へ留学が決まっているとのことであった。また、日本語以外の専門分野の学生でも留学可能なのかといった質問があった。他学部の学生の中にも日本への留学希望者がいるとのことであった。覚書が締結されれば、早ければ2018年10月からの受入れが可能と伝えた。詳細は後日国際部門の担当者に通知する旨伝えた。



## ○中国農業大学（12月8日14時45分～）

【当 方】寺本理事、佐古名誉教授、田端名誉教授、大和教授、高助教、市山学術研究協力部長、成瀬国際課長、出雲国際課主任、山田国際交流推進センターコーディネーター

【先 方】Gong Yuanshi 副学長、李再貴食品科学・栄養工学部教授（佐大卒）、Li Zandong 教授、唐宝国際課副課長

- ・第1次「211プロジェクト」と「985プロジェクト」で全国重点大学に指定された。一流大学建設プログラム（40大学）に参加。中国大学ランキング30位（農学系では1位）。農業大学として世界3位。nature、cell等に年間2,000論文が掲載。
- ・2000年10月、大学間交流協定を締結。協定締結以降、交換留学生20名を受入れ。直近では2016年に2名を受入れ。派遣留学生は0名。佐賀大学サマープログラム(SUSP)に4名を受入れた。コンタクトパーソンは、農学部藤木教授（退官）、柳田名誉教授、長尾教授。
- ・主に農学部及び工学系研究科との間で、学部学生、修士、博士、研究者の交流を積極的に実施する方向で意見交換を行った。その中で、作物、動物などの種・資源、とりわけ中国に適した大豆の共同研究に関する提案があった。
- ・Li Zandong 教授より12/9に北京の日本大使館で行われる中国留学生（派遣、受入の学生約200名が参加）の集まりに寺本理事、佐古元学長、田端名誉教授、大和教授、高助教を招待したいという申し出があり、急遽、参加することになった。



### 3. 佐賀大学友好特使の委嘱と活動

佐賀大学では帰国留学生等を佐賀大学の友好特使として委嘱している。この友好特使を通じて海外の教育・研究情報、現地ネットワークに関する情報の収集や発信を行い、留学生との交流および国際学術交流の推進を図っている。本年度も新たに、2人の方に佐賀大学友好特使を委嘱した。ホームカミングデー in 北京（2.1参照）の中で、本学で学んだ中国人留学生会の発足式が行われ、初代会長の北京工業大学・李徳勝教授、世話役の天津科技大学・宋麗紅准教授から、留学生会を通じ、中国における佐賀大学関係者の連携を深めていきたい旨の挨拶がなされた。今後の留学生会の発展を期待し、寺本理事から上記2名に佐賀大学友好特使を委嘱した。今後、佐賀大学海外同窓会ネットワーク（中国元佐賀大学留学生会）をSNSの活用等により更に強化して行くことに期待している。

委嘱日	国名	名前	所属・職名（委嘱時）	備考
2013/9/20	中国	葛 堅	浙江大学 建築工程学院 教授	元佐賀大学教員
		石 堅忍	浙江工商大学 准教授	佐賀大学卒業生
		欧阳 金龙	四川大学 建築・環境学部 准教授	佐賀大学卒業生
		官 冬杰	重慶交通大学 教授	元佐賀大学非常勤研究員
		应 小宇	浙江大学城市学院 准教授	佐賀大学卒業生
		王 纯彬	浙江工商大学 准教授	佐賀大学卒業生
		祁 巍鋒	浙江大学 建築工程学院 講師	佐賀大学卒業生
2013/11/1	日本	副島善文	日本たばこ香港取締役会長、香港佐賀県人会会長	香港中文大学プログラム
2014/1/15	スリランカ	Saliya de Silva	Senior Lecturer, Head of the Dept. of Agricultural Extension, Faculty of Agriculture, University of Peradeniya	佐賀大学卒業生
	タイ	Chollada Luangpituksa	Associate Professore, Vice Dean, Faculty of Economics, Kasetsart University	研究交流・学生交流キーパーソン
	ニュージーランド	Ken Jackson	Research Professor, AIS St Helens; Research Associate and Former Director, Center for Development Studies, Auckland University	研究交流・学生交流キーパーソン
2014/5/30	日本	北村 隆則	香港中文大学 教授、元香港総領事	香港中文大学プログラム
2014/7/7		江頭 利将	セイカン総合エンジニアリング 最高執行責任者 (COO)、上海佐賀県人会幹事長	学生交流キーパーソン
2016/2/6	タイ	Panmanas Sirisomboon	Associate Professor, Department of Agricultural Engineering, Faculty of Engineering, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	佐賀大学卒業生
2017/2/11	ベトナム	Ngo Minh Thuy	ハノイ国家大学外国語大学 副学長	研究交流・学生交流キーパーソン
2017/12/9	中国	李 徳勝	北京工業大学 教授	佐賀大学卒業生
		宋 麗紅	天津科技大学 准教授	佐賀大学卒業生

## II. 学生交流

### 1. 留学生受入れ

#### 1.1 留学生受入れの概況

平成25年から平成29年（5月1日）までの過去5年間の留学生数（学位取得を目的とする留学生、交換留学生、研究生）の推移を以下に示す。留学生数は平成19年の332人をピークに減少を続けていたが、平成28年の207人で底を打ち、平成29年には224人と反転した。その後の直近の統計（平成29年11月現在）を見ても、234人と増勢が続いている。

これを国籍別（表1）で見ると、中国人留学生在が平成28年度から29年度にかけて、63人から74人に増えている。これは、日本全体で中国人留学生在数が回復傾向にあることを反映しているものと思われる。また、新規の協定校からの受入れによりリトアニアからの留学生在が2人来日したことや、ミャンマー、ラオスといった東南アジアからの留学生在がそれぞれ増えている。ミャンマー人向けの奨学金（戸上電機製作所奨学金）が創設されたことなどが要因である。

過去5年間で見ると、バングラデシュからは5年前比で2倍超の26人、タイからも1.7倍の19人となっている。平成28年からは、エジプト、モザンビーク、セネガル、チュニジア、モロッコといったアフリカ諸国からの学生を新規に受入れており、受入れ国の多様化が進んでいる。今年も南スーダン、サントメ・プリンシペ、ナイジェリアから新規に来日した。

人数の減少が底を打ったとは言え、中国人とインドネシア人はピーク時に比べ半数以下の低水準にとどまっている。個別国への対応として、平成29年12月に中国の北京でホームカミングデーを開催するなど、留学生の誘致に取り組んでいるところである。また、インドネシアに関しては、インドネシア政府（DIKTI）奨学金の受給対象大学から外れたことで、政府奨学金を受給して本学に留学することができなくなったことが大きく影響していると思われる。この点については、引き続き各方面よりインドネシア政府に働きかけている。

次に、学生の在籍身分別（表2）の推移をみると、減少が目立つのは、学位取得をめざした正規留学生・研究生である。更に正規留学生のなかでも学部及び大学院別では、学部所属の留学生数は平成25年から平成29年では38人（51%）の減少と、落ち込みを続けている。一方、大学院に関しては、9人（8%）減少しているものの、過去2年連続で増加しており、回復傾向にあると思われる。研究生の増加（4人→11人）も、支援材料であろう。

他方、特別聴講学生（交換）・短プロSPACE（交換）の協定校からの交換留学生数は50人前後で推移している。平成25年のSPACE-J開設に加え、平成29年に新規プログラム（SPACE-Arita）開始も下支えし、平成29年にはほぼ定員（60名）を満たしている。近年は、交換留学経験者が佐賀大学に戻ってくるケースも増えている。上記の大学院生・研究生のうち、12人を占めており、交換留学生の増加が、正規の大学院生の増加に寄与する流れができつつあると言えるだろう。

本学で減少している留学生は、以上のように、国籍・地域別では中国・インドネシアからの留学生であり、協定校からの交換留学生以外の学位取得を目指した学部学生及び大学院生であることがわかる。このことから、一つには急激に減少している学部への留学生受入を再検討する必要がある。他方で大学院レベルでは、相手国政府奨学金の獲得を本学からも積極的に支援すること、各研究科が実施する特色ある留学生受入プログラムや、海外の大学等と連携して実施する共同研究などを促進し、本学大学院への進学を促す必要がある。そのためには、積極的な日本留学フェア等への参加や継続的な協定校等への直接的訪問などによる佐賀大学のプロモーション活動、本学で学位を取得し帰国した元留学生等との交流強化及びネットワークの活用、同時にホームページやSNS等による広範囲な不特定多数に向けた大学広報等を行うことなどが考えられる。これらはすでに着手しており、一



部、効果が見られ始めているが、引き続き取り組んでいく必要がある。

【表1】平成22年～29年国籍別留学生数の推移

(毎年5月1日集計)

国・地域		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
アジア	中国	162	161	145	136	109	93	63	74
	インドネシア	33	33	28	22	17	5	10	11
	マレーシア	10	13	20	24	21	20	16	15
	韓国	27	21	19	16	16	9	18	17
	バングラデシュ	19	15	13	11	7	18	24	26
	ベトナム	14	14	18	14	13	17	12	15
	台湾	7	11	9	8	14	11	11	8
	タイ	5	5	6	11	10	12	19	19
	スリランカ	9	10	9	7	8	5	6	6
	ネパール	8	7	5	2	2	2	3	1
	カンボジア	0	0	1	1	4	1	3	3
	ミャンマー	0	0	0	0	0	1	3	5
	モンゴル	1	1	1	1	1	0	0	0
	パキスタン	1	1	0	0	0	1	1	1
	ラオス	0	1	1	0	1	0	0	3
インド	0	0	0	0	0	1	0	0	
	小計	296	293	275	253	223	196	189	204
中南米	ブラジル	0	0	0	0	0	0	1	0
中近東	イラン	0	1	1	1	1	0	0	0
アフリカ	エジプト	0	0	0	1	1	2	3	3
	サントメ・プリンシペ	0	0	0	0	0	0	0	1
	ウガンダ	1	1	1	1	0	0	0	0
	ナイジェリア	0	0	0	0	0	0	0	1
	モザンビーク	0	0	0	0	0	1	2	2
	ケニア	1	0	0	0	0	1	1	0
	セネガル	0	0	0	0	0	0	1	1
	チュニジア	0	0	0	0	0	0	1	1
	モロッコ	0	0	0	0	0	0	1	1
	南スーダン	0	0	0	0	0	0	0	1
	ガーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
	エチオピア	0	0	0	0	0	0	0	0
	南アフリカ共和国	0	0	0	0	0	0	0	0
	ルワンダ	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2	1	1	2	1	4	9	11
北米	アメリカ	0	1	0	2	2	1	1	1
	カナダ	1	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1	1	0	2	2	1	1	1
オセアニア	オーストラリア	0	0	0	0	1	3	1	2

ヨーロッパ	オランダ	0	0	0	0	0	0	0	1
	フランス	2	0	1	2	2	1	2	1
	フィンランド	0	0	0	0	0	2	1	1
	ポーランド	1	1	1	0	0	1	0	0
	リトアニア	0	0	0	1	0	1	0	2
	アルメニア	0	0	0	0	1	0	0	0
	スウェーデン	0	0	0	0	1	0	0	0
	ベルギー	0	0	0	0	1	0	0	0
	セルビア	0	0	0	0	0	0	1	0
	ドイツ	0	0	0	0	0	0	1	1
	トルクメニスタン	0	0	0	0	0	0	1	0
	小計	3	1	2	3	5	5	6	6
計	302	297	279	261	233	209	207	224	
国数	17	17	17	18	21	23	27	27	

※在留資格「留学」の学生数  
鹿児島連大含む

【表2】平成22年～29年在籍身分別留學生数の推移

(毎年5月1日集計)

在籍身分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
正規生（学位取得）	205	200	195	187	160	144	135	140
研究生	20	22	13	7	4	8	4	11
特別研究学生（交換）	2	1	2	3	2	3	3	1
特別聴講学生（交換）	33	31	30	25	0	0	0	0
短プロ SPACE（交換）	20	18	16	24	57	48	55	58
科目等履修生	1	3	0	0	0	0	0	0
日本語・日本文化研修留学生	1	0	1	1	3	2	4	1
連合大学院	20	22	22	14	7	4	6	13
計	302	297	279	261	233	209	207	224

※在留資格「留学」の学生数  
休学含む  
鹿児島連大含む

なお、平成25年10月より日本語で専門科目を履修する交換留学生のための短期留学プログラム（SPACE-J）が開始となり、平成26年度特別聴講学生（交換）に分類されていた留学生は短期留学プログラムに加えられている。

## 1.2 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）

### 1.2.1 SPACE-E 実施報告

#### ■コーディネーター

古賀 弘毅 准教授（全学教育機構）

丹羽 順子 准教授（全学教育機構）

## 1. 平成29年度春学期（平成29年4月～9月）

### ■実施概要

平成28年10月に入学した第16期の学生のうち7人が2学期目も続けて科目を学修した。そして、4月入学の学生15人を受入れた。これら計22人の学生の出身国別の人数は、中国1人、台湾1人、韓国2人、タイ3人、インドネシア4人、リトアニア2人、アメリカ1人、オーストラリア2人、フィンランド1人、ベトナム1人、バングラデシュ1人、スリランカ2人、ラオス1人である。受入れ学部別に見ると、教育学部6人、経済学部4人、理工学部7人、農学部4人、芸術地域デザイン学部1人となっている。学生は全員、必修科目である「日本事情研修B」、選択必修の「日本語」や「異文化交流インターフェース科目」、および各学部が提供している「専門選択科目（英語による講義）」を履修した。これらの他に、理工学部と農学部に所属する学生は、「自主研究」を履修し、自分の研究課題を設定して、受入れ教員から個別に指導を受けた。

### 平成29年度春学期時間割

	月	火	水	木	金
I	文法初級Ⅱ 文法中級Ⅰ 会話中級Ⅱ	文法初級Ⅰ 聴解中級（A）	文法初級Ⅰ 文法初級Ⅱ	文法初級Ⅰ 文法中級Ⅰ	会話初級Ⅰ 文法初級Ⅱ 会話中級Ⅰ
II	会話初級Ⅰ	会話初級Ⅱ 会話中級Ⅰ	異文化交流Ⅲ	異文化交流Ⅲ	漢字初級Ⅰ 漢字中級Ⅰ 英語論文構成Ⅰ
III	漢字初級Ⅱ	理工学紹介B （オムニバス）	第二言語習得・バイリン ガリズム研究入門	会話初級Ⅱ 読解作文中級Ⅰ	
IV	オレオサイエンス		SPACE-E 日本事情研修B	日本に関するWEBペー ジ製作応用	文法発展導入
V			概説農学と環境学 （オムニバス）		

「日本語」は、能力別クラスになっており、レベル1（日本語初級Ⅰ）からレベル6（上級Ⅱ）までであるが、表には日本語初級Ⅰから中級Ⅰまでをのせている。

### 春学期の見学等

H29年	4月	日本事情研修（福岡市民防災センター、九州国立博物館、太宰府天満宮）
	7月	日本文化研修（折り紙）
	6月	日本事情研修（キリンビール工場見学）

## 春学期入学者（9か国・地域 13大学 15人）

	国・地域	性別	大学名	在学期間
1	インドネシア	女	ランブンマンクラット大学	半年
2		女	ブラウイジャヤ大学	1年
3		男	リアウイスラム大学	1年
4		男	マラン国立大学	1年
5	中国	女	浙江理工大学	半年
6	タイ	女	チェンマイ大学	1年
7	ラオス	女	ラオス国立大学	1年
8	ベトナム	女	アンザン大学	1年
9	韓国	男	釜慶大学校	1年
10		男	牧園大学	半年
11	スリランカ	男	ペラデニヤ大学	1年
12		女		1年
13	フィンランド	女	ユバスキュラ大学	半年
14	オーストラリア	女	シドニー工科大学	1年
15		男		1年

## 自主研究テーマ（平成29年4月～9月）

教育学部	ドキュメンタリー映画の作成：私の佐賀体験
経済学部	ラオスから日本への輸出に影響を与える要因
理工学部	ループヒートパイプに関する研究
	水際地盤の破壊現象の解明に関する研究
	建築の魅力とイソピストによる歴史的町並み回遊ルートのポテンシャル評価
	日本の茶室空間に関する研究
	熱電発電の発電原理と最先端技術に関する研究
	地方都市の持続可能性に向けた現代的コミュニティスペースのあり方に関する研究
	mBOTを用いたロボットプログラミング
農学部	人工マクロポアを用いた不耕起栽培の水分移動に関する実験的研究
	野菜用養液栽培システムの開発
	培養細胞と固体における環境応答転写因子 Nrf1 の機能差異の解明
	GPR120の局在化と機能にスフィンゴミエリン合成が与える影響
芸術地域デザイン学部	実験アニメーション表現研究

## 履修学生の専攻分野

経済学部：Planning and Economic Development

理工学部：Electrical Engineering, Mechanical Engineering Informatics, Architecture, Informatics, Geotechnical Engineering

農学部：Sustainable Agriculture system, Cell and Molecular Biology, Food Technology, Agriculture

芸術地域デザイン学部：Animation and International Studies

## 2. 平成29年度秋学期（平成29年10月～平成30年3月）

### ■実施概要

平成29年10月に新たに第16期の学生20人が入学した。4月に入学した学生人のうち、10月期も続けた11人と合わせて31人がSPACE-Eの学生として秋学期の科目を学修した。出身国別の人数は、中国人7人、韓国1人、タイ2人、インドネシア9人、スリランカ2人、マレーシア1人、ラオス1人、バングラデシュ2人、ベトナム1人、オーストラリア2人、リトアニア人1人、カナダ1人、フランス1人である。受入れ学部別に見ると、文化教育学部・教育学部6人、芸術地域デザイン学部1人、経済学部2人、理工学部16人、農学部6人となっている。学生は全員、必修科目である「日本事情研修A」及び、各学部が提供している「専門選択科目（英語による講義）」、さらに必要に応じて「日本語」あるいは「異文化交流」インターフェース科目を履修した。これらの他に、理工学部と農学部に所属する学生および、ほかの学部の学生で希望する学生は、「自主研究」を履修し、自分の研究課題を設定して受入れ教員から個別に指導を受けた。

### 平成29年度秋学期時間割

	月	火	水	木	金
I	文法初級Ⅱ 文法中級Ⅰ 会話初級Ⅰ	文法初級Ⅰ 会話中級Ⅰ	文法初級Ⅰ 文法初級Ⅱ 文法中級Ⅰ	文法初級Ⅰ 文法初級Ⅱ	会話初級Ⅰ
II	漢字語彙初級Ⅰ	会話初級Ⅱ	異文化交流Ⅱ	異文化交流Ⅳ	会話中級Ⅰ 発展経済学（経）
III	聴解中級(B)	漢字語彙初級Ⅱ		会話初級Ⅱ 読解中級Ⅰ	パブリックスピーキング （芸・デ）
IV		日本に関するWEBページ制作（教）	SPACE-E 日本事情研修A	応用生化学（農）	科学と工学入門（理）
V	日本の環境保存の潮流： 工学技術と生活スタイル （教）	植民地時代とその後の日本と東南アジア（教）			

「日本語」は能力別クラスになっており、レベル1（日本語初級Ⅰ）からレベル6（上級Ⅱ）までであるが、表には日本語初級Ⅰから中級Ⅰまでをのせている。

（全）：全学教育機構 （経）：経済学部 （農）：農学部 （理）：理工学部 （教）：（文化）教育学部

### 秋学期の視察・見学等

H29年 11月	日本事情研修・A（異文化交流Ⅳの学生と一緒に大観峰見学旅行）
2月	日本事情研修（羊羹資料館、酒造見学）

## SPACE-E 秋学期在籍者 (13ヶ国・地域 22大学 31人)

	国・地域	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
1	リトアニア	男	JASSO	ヴィダウタスマグヌス大学	1年
2	カナダ	女		ウィルフレッドロリエ大学	半年
3	フランス	女		ブルゴーニュ大学	1年
4	オーストラリア	男		シドニー工科大学	1年
5	オーストラリア	女		シドニー工科大学	1年
6	バングラデシュ	女	JASSO	チッタゴン工科大学	1年
7	バングラデシュ	女	JASSO	チッタゴン工科大学	1年
8	スリランカ	男		ペラデニア大学	1年
9	スリランカ	女	JASSO	ペラデニア大学	1年
10	タイ	女	佐賀大学奨学金	コンケン大学	半年
11	タイ	女	JASSO	チェンマイ大学	1年
12	ラオス	女	JASSO	ラオス国立大学	1年
13	マレーシア	女	JASSO	トゥンフセインオン大学	1年
14	韓国	男		釜慶大学校	1年
15	インドネシア	男		セバラスマレット大学	1年
16	インドネシア	男	JASSO	セバラスマレット大学	1年
17	インドネシア	男		ハサヌディン大学	1年
18	インドネシア	男	佐賀大学奨学金	ブラウイジャヤ大学	半年
19	インドネシア	男		ブラウイジャヤ大学	半年
20	インドネシア	女		リアウイスラム大学	1年
21	インドネシア	男		マラン国立大学	1年
22	インドネシア	女		ランブンマンクラット大学	半年
23	インドネシア	男		リアウイスラム大学	1年
24	中国	女		浙江理工大学	半年
25	中国	男		浙江科技学院	半年
26	中国	女		浙江科技学院	半年
27	中国	男		浙江科技学院	半年
28	中国	女		浙江科技学院	半年
29	中国	女	佐賀大学奨学金	温州大学	半年
30	中国	女		温州大学	半年
31	ベトナム	女	JASSO	アンザン大学	1年



平成29年度秋学期（平成29年10月～平成30年3月） 自主研究テーマ

芸術地域デザイン学部	実験アニメーション表現研究
理工学部	次世代太陽電池用 ZnTeO 系材料のフォトルミネッセンス特性に関する研究
理工学部	地方都市の持続可能性に向けた現代的コミュニティスペースのあり方に関する研究
理工学部	mBOT を用いたロボットプログラミング（上級）
農学部	人工マクロポアを用いた不耕起栽培の水分移動に関する実験的研究
農学部	野菜用養液栽培システムの開発
農学部	培養細胞と固体における環境応答転写因子 Nrf1 の機能差異の解明手法の理解
経済学部	ラオスから日本への輸出に影響を与える要因－パート II
理工学部	中国におけるグリーンビルディングの気候地域別変遷と将来
理工学部	弾性構造物の地震応答計算における数値積分の精度に関する研究
理工学部	溝付細径管の沸騰・凝縮伝熱促進に関する研究
理工学部	平面型蒸発器を有するループヒートパイプの冷却性性能に関する研究
理工学部	次世代 GWP 冷媒の熱物性に関する研究
理工学部	膝関節の AE 診断についてバイオ統計の応用
理工学部	軟弱地盤改良工法
理工学部	$\gamma$ 線の相互作用とその検出
理工学部	統計的信号処理
理工学部	素粒子物理と弦理論への入門
理工学部	拡張現実技術のプロジェクションマーカ認識精度の検討
理工学部	衛星リモートセンシング画像データに基づく自然災害モニタリング
理工学部	衛星リモートセンシング画像データに基づく自然災害モニタリング
農学部	インドネシアの油やし産業における市場構造と組織
農学部	LED 照射による水生植物の発芽と生長の促進
農学部	特殊なフィルター浮遊物質除去能力に関する研究
文化教育学部	アメリカ人の抱く日本のゲイシャ観－アーサー・ゴールデン「さゆり」(Memoirs of Geisha) の事例研究をもとに－

平成29年度春・秋学期（平成29年4月～平成30年3月）インターフェースプログラム「異文化交流」科目履修 SPACE-E の学生は、全学教育機構「異文化交流」プログラムが提供する5つの科目（以下のリストの上から5つ）を履修できた。履修者は、正規学生（日本人学生）や他の国からの留学生との交流を通して日本文化、他の地域の文化を知った。また、リストの一番下の科目（異文化交流Ⅳ：SPACE-E との交流）を受講する正規学生（日本人学生がほとんど）と交流授業を持ち、見学旅行を一緒に行った。

春学期

異文化交流Ⅲ	Culture in Dance
異文化交流Ⅳ	地域社会の価値再検討：フィールドワーク

秋学期

異文化交流Ⅱ	Ancient and Modern Traditions of Health in the World
異文化交流Ⅳ	言語学野外手法 (Field methods in linguistics)
異文化交流Ⅳ	SPACE-E との交流 (日本事情研修・A との合同授業)

## 1.2.2 SPACE-J 実施報告

### ■コース概要

SPACE-Jは佐賀大学の協定校に所属する学生を対象としたプログラムである。日本語能力試験（JLPT）N2相当以上の日本語能力を有することが参加の前提である。日本語や日本社会について学べるほか、個々の学生の専攻に応じた授業を日本語で履修できるカリキュラムを提供している。また、必修科目である「日本事情研修C/D」では、学期ごとにテーマを設定し、体験型の学習を行うことで、日本や佐賀についての理解を深めたり、他国からの留学生と交流したりする機会を提供している。

SPACE-Jには、レギュラーコースとブリッジコースの2種類が設けられている。来日当初のプレースメントテストの結果、日本語能力が初中級・中級レベルと判定された学生は、ブリッジコースに参加し、日本語を優先的に学修する。1学期終了後に十分な日本語能力を獲得していれば、レギュラーコースに移ることができる。それぞれのコースの履修科目は下記のとおりである。学生は、1学期あたり最低12単位を修得することが求められる。条件を満たした学生には、修了時に佐賀大学から修了証が授与される。

### ■コーディネーター

布尾 勝一郎 准教授（全学教育機構）      中山 亜紀子 准教授（全学教育機構）  
吉川 達 講師（全学教育機構）

### SPACE-Jの履修科目

SPACE-J	レギュラーコース		日本事情研修	必修2単位	1学期あたり12単位以上
			専門科目等	選択	
			日本語科目	選択	
	ブリッジコース	中級	日本事情研修	必修2単位	
			日本語科目	6単位以上	
			専門科目等	最大4単位	
		初中級	日本事情研修	必修2単位	
			日本語科目	10単位以上	

## 1. 平成29年度春学期（平成29年4月～9月）

### ■実施概要

平成29年度春学期のSPACE-Jプログラムの参加者数は、前年度からの継続者も含めると34人（うち、ブリッジコース5人）であった。ブリッジコースのうち1人は、1学期目の終了後に試験を経てレギュラーコースへの移行を認められ、各自の専門分野も履修できることとなった。残る4人は、日本語を中心に学修し、半年の留学期間を終えた。

### 平成29年度春学期の視察・見学等

平成29年6月	日本事情研修（佐賀県立名護屋城博物館、呼子大綱引き）
平成29年7月	日本事情研修（佐賀県立武雄高校訪問、武雄市内見学）

春学期入学者（4ヵ国・地域 9大学 19人）

	国・地域	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
1	中国	女		遼寧師範大学	1年
2		女	JASSO	浙江理工大学	1年
3		女			1年
4		女			1年
5		女			半年
6		女			半年
7		女			半年
8		女			半年
9		女	JASSO		北京工業大学
10	韓国	男		培材大学校	1年
11		女		釜慶大学校	半年
12		男			半年
13		女	JASSO	大邱大学校	1年
14		男		韓国技術教育大学	半年
15		男			半年
16	台湾	女		文藻外語大学	半年
17		女			半年
18		男			半年
19	ベトナム	女	JASSO	ベトナム国家大学ハノイ外国語大学	1年

■日本事情研修

春学期の日本事情研修Dは、「スポーツと余暇」をテーマとして、柔道体験をしたり、自分の国の遊びを紹介したり、日本人の余暇に関する調査を行い、スポーツと余暇の位置づけについて自分の文化と比較しながら理解を深めた。その他、学外研修として、佐賀県立武雄高校を訪問し、高校生と交流し、部活動の見学やインタビューも行った。また、中国大陸や朝鮮半島と日本との間の交流についての学びを深めるため、佐賀県立名護屋城博物館および唐津周辺の見学を行った。加えて、日本の祭りを体験してもらうため、今年度から、呼子町の大綱引きに参加した。

2. 平成29年度秋学期（平成29年10月～平成30年3月）

平成29年度秋学期のSPACE-Jプログラムの参加者数は、前学期からの継続者も含めると27人（うち、ブリッジコース6人）であった。ブリッジコース参加者のうち5人は、1学期終了時にレギュラーコースへ移行、残る1人は、日本語を中心に学修し、半年の留学期間を終えた。

平成29年度秋学期の視察・見学等

H29年 11月	日本事情研修（九州陶磁器文化館、窯元見学・絵付け体験、長崎県波佐見町、有田町）
----------	---

## 秋学期入学者（6カ国・地域 13大学 19人）

	国・地域	性別	奨学金区分	大学名	在籍期間
1	中国	女		華東師範大学	1年
2		女		遼寧師範大学	1年
3		女			1年
4		女	JASSO	浙江理工大学	1年
5		男	JASSO	北京工業大学	1年
6		女		ハルビン工業大学	1年
7		女			1年
8		男			1年
9		女		華東理工大学	半年
10	韓国	女		安東大学校	1年
11		男		済州大学校	半年
12	台湾	女	JASSO	国立政治大学	1年
13		女	JASSO	国立台北大学	1年
14	ベトナム	女	JASSO	ベトナム国家大学ハノイ外国語大学	1年
15		女	JASSO		1年
16	カンボジア	男	JASSO	王立ブノンベン大学	1年
17		男	JASSO		1年
18	インドネシア	女	JASSO	ガジャマダ大学	1年
19		男	JASSO		1年

## ■日本事情研修

秋学期の日本事情研修Cでは、「文化の往還」をテーマとして、「現代の文化」がどのような経路を通じて伝播したのか、またそれがどのように変形して世界に広がり、逆輸入されたのかを調査し、「私が見つけた文化の往還」と題して発表を行った。日本発祥の文化の例として、ゲストスピーカーを招いて折り紙の歴史と



呼び大綱引き



折り紙体験

現代的な発展について講義を受けた。また、大阪大学の教員による遠隔授業で、日本における結婚についてや、「変身」と宗教の関係について学んだ。また、学外研修としては、日本の磁器発祥の地である有田町の佐賀県立有田陶磁器博物館を学芸員の解説を交えて見学したほか、近隣の長崎県波佐見町の窯元で工房を見学、絵付け体験も行うなど、佐賀周辺の歴史・文化についての知識を深めた。

## ■奨学金

平成29年度は、JASSO 奨学金の申請が採択され、14人に対して支給が可能となった。審査の結果、春学期入学者4人、秋学期入学者10人に支給した。とりわけ、秋学期は東南アジアの学生を6人受入れることができた。プログラム参加学生の出身地の多様化、ひいては佐賀大学の日本人学生との交流機会の多様化に貢献したと考え

られる。

### 1.2.3 SPACE-ARITA 実施報告

#### ■コース概要

SPACE-ARITA は佐賀大学の協定校に所属する、芸術・デザイン分野の、主に陶磁器による表現を専門的に学ぶ学生を対象としたプログラムである。在籍校にて陶磁器の授業やプログラムを履修していることが参加の前提である。メインプロジェクトである「自主研究 C/D」を軸に、肥前地区の窯業について学ぶフィールドワークである「日本事情研修 E/F」、さらに各自の研究や興味関心により、佐賀大学学生に開講されている授業を共に受講することで、専門性を高めることができる、ユニークで柔軟なカリキュラムを提供している。交換留学生はSPACE-ARITA のプログラムの中で、日本人学生や地元の人々との学術的で有意義な交流を通じて、日本の社会や地域の人々への認識や理解を深めることができる。

また、学期が始まってひと月経った頃に、自己紹介を兼ねたパネルプレゼンテーションを本庄キャンパスで開催している。これはSPACE-ARITA の学生と本学学生との交流の場をつくるとともに、平成27年度に新しく交流協定が締結された Burg Giebichenstein University of Art and Design Halle/GERMANY（以下 BURG/Halle）と Design Academy Eindhoven/THE NETHERLANDS（以下 DAE）の、両校での授業内容やキャンパスライフ、現地生活情報などを本学学生に提供する目的でもある。SPACE-ARITA では DAE および BURG/Halle からの学生を受け入れることが多いためである。そうすることで本学学生が将来留学を目指す動機付けになることを期待している。履修科目は以下の表のとおりである。

学生の最低履修要件は、各学期12単位以上で、修得した単位は佐賀大学の成績証明書として発行される。また、留学期間の終わりに、要件を満たした学生は佐賀大学から修了証が授与される。学期終了後に、この修得した単位数を、学生の在籍校の国際課またはそれに相当する課に報告する。

#### ■コーディネーター

三木 悦子 講師（芸術地域デザイン学部）

#### ■指導教員

※留学生の研究内容により各研究段階によって専門分野の教員が指導する。

田中 右紀 教授（芸術地域デザイン学部）

赤津 隆 教授（芸術地域デザイン学部）

湯之原 淳 講師（芸術地域デザイン学部）

甲斐 広文 講師（芸術地域デザイン学部）

三木 悦子 講師（芸術地域デザイン学部）

#### SPACE-ARITA の履修科目

SPACE-ARITA	必修科目	自主研究 C/D	6 単位	1 学期あたり 12 単位以上
		日本事情研修 E/F	2 単位	
	選択科目	ロクロ成形 I / II / III	2 単位	
		石膏型成型 I / II / III	2 単位	
		陶磁器成形技法 I / II / III	2 単位	
		装飾技法 I / II / III	2 単位	
		釉薬化学 I / II	2 単位	



### ■ 「自主研究 C/D」

「自主研究 C/D」は交換留学生のメインプロジェクトで、週の大半をこの時間に費やす。最初に、有田で習得したい内容の研究テーマを設定し、基本的に毎週行われる教授とのミーティングを経て方向性を決定する。そして、相互に関連する「日本事情研修 E/F」と共に、研究への調査や試作・試験を行い、プロジェクトの内容を充実させる。各自の研究テーマに即し、ここではアイデアの設計、型作りから生地成形、焼成等、焼物に関わる全ての過程を学習し、スケジュールを含むプロジェクトを学生自身で管理する。肥前窯業圏特有の専門的な知識によるアドバイスや技術指導は、ミーティングで確認し、それぞれの進捗に合わせて専門教員が適宜行う。

最後に、研究の軌跡をまとめた Booklet 作成と、学期終了後に最終プレゼンテーションを有田キャンパスにて企画し、開催する。これは SPACE-ARITA は有田キャンパスを中心に「自主研究 C/D」や「日本事情研修 E/F」において肥前窯業圏で様々な企業や作家、団体、また窯業技術センターや九州陶磁文化館、有田町歴史民俗資料館などの公的機関と関わりながら学習すること、そして有田町での生活を通して学生が関わった地域住民に還元する目的で行っている。最終プレゼンテーションには佐賀大学の教員や学生、肥前地区の窯業関係者、地域住民、メディアなど、約50名の方々が参加する。

### ■ 「日本事情研修 E/F」

「日本事情研修 E/F」では、佐賀県の焼物、主に肥前地区における陶磁器産業の現場の見学や、美術館や博物館の見学などの歴史的な観点から、主要産業について学び、焼物への理解を深める。日本磁器発祥の地でもあり、世界にも羽ばたいた有田焼の特異性と、肥前窯業圏の様々な焼き物表現、陶磁器産業の歴史や現在を、焼き物を通して、また日本文化を通してその奥深さに触れる。見学先の調査や意見交換を行い、他国の焼物産業との比較を通して、相対的に焼物を見ることで、改めて焼物について考える機会とする。ここでは留学前に描いていた日本の陶磁器やそれに関連する文化等の違いや新たな気付きを得る。

週1回、全15回の授業想定であるが、窯業関連の様々なところに出向き、見学する、半日や1日のフィールドワークを主として行う。自主研究との関連性を深めるため、基本的には学期の初旬（前期：4月～5月、後期：10～11月）にかけて行う。最後に、調査・見学の軌跡をまとめた Booklet を作成する。

#### 1. 平成29年度春学期（平成29年4月～9月）

### ■ 実施概要

平成29年4月にオランダ DAE よりオランダ人1名、フランス人1名、計2名の学生を芸術地域デザイン学部芸術表現コース有田セラミック分野にて受け入れた。学生は、必修科目である「自主研究 D」と「日本事情研修 F」、選択必修の「ロクロ成形 I」または「石膏型成型 I」、そして「釉薬化学概論」を履修した。

#### 春学期入学者（2 か国・地域 1 大学 2 人）

	氏名	性別	大学名／国・地域	在籍校での専攻	在学期間
1	Mr. Rino Claessens	男	Design Academy Eindhoven (NETHERLAND)	Public Private	半年
2	Ms. Céline Lallau	女		Public Private	半年



平成29年度春学期時間割

	月	火	水	木	金
I		「自主研究D」 全体ミーティング	(自主研究D)	(自主研究D)	
II		釉薬化学概論	(自主研究D)	(自主研究D)	SPACE-ARITA 日本事情研修 F
III	ロクロ成形 I 石膏型成型 I		(自主研究D)	(自主研究D)	
IV	ロクロ成形 I 石膏型成型 I		(自主研究D)	(自主研究D)	
V			(自主研究D)	(自主研究D)	

■ 「パネルプレゼンテーション」

6月14日(水) 13:00~15:30、教養111教室にて開催。

DAEからのSPACE-ARITA学生2名に加え、DAEを卒業した日本人のデザイナー2名を招待した。SPACE-ARITAで受け入れる初めての学生であり、本学学生も大変関心を示したと同時に、日本人でDAEを卒業し、デザイナーとしてどのように活動しているかということに、非常に興味を抱いていた。終了後は質疑応答の飛び交う闊達な場となった。



**DESIGN ACADEMY EINDHOVEN  
PRESENTATION**

オランダ留学で広がる、デザインの可能性

**6.14** Wed  
13:00-15:00

佐賀大学本庄キャンパス  
教養 111 教室

 **Kumi Oda**  
Men and Leisure Department  
 **Aya Kawasaki**  
Food and Fabric Department  
 **Rino Claessens**  
Public Private Department  
 **Céline Lalau**  
Public Private Department

**[ DESIGN ACADEMY EINDHOVEN ]**  
1947年オランダのアイントホーフェンに設立された世界屈指のデザイン大学。Maarten Baas や Marcel Wanders、Hella Jongerius、Christien Meindertorusをはじめ、コンセプチュアルデザインの第一線で活躍する多くの卒業生を輩出する。世界各所からの留学生と学べる環境で、社会人ともつながりながら革新的で自由な発想の作品を次々と生み出し、ミラノサローネなどにも積極的に参加している。今年度より、佐賀大学との提携デザイン学部は正式に交換留学制度をスタートさせ、現在2名の学生が有田キャンパスにて拠拠を学んでいる。

Supported by  佐賀大学

■ 「自主研究D」

1	Mr. Rino Claessens	<p>「Floating Tableware」 日本の食文化やその食器の‘高台’に注目した。彼にとって‘浮いている’ように見えるその佇まいを、テーブルの上を漂っているような食器のシリーズ、「Floating Tableware」として制作した。</p>	
2	Ms. Céline Lallau	<p>「White River」 有田の町に流れる川の中に、時々小さな陶片を見つけることができる。彼女は様々な陶片より、その陶片に描かれた伝統的な文様に興味を持ち、その一つ‘雪輪’の文様を引き延ばして得られるオブジェを制作した。</p>	



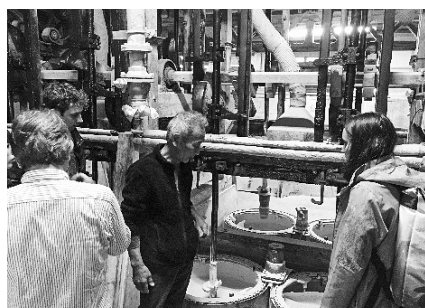


## ■ 「日本事情研修F」

オリエンテーションで学生に配布する、春学期の見学等を記した予定表は以下の表の通りである。

日本事情研修予定表：The schedule of “Field work on Japanese affairs” 2017

	日	時限	内容
1	14-Apr Fri	Ⅲ 13:00~14:30	オリエンテーション・九州陶磁文化館見学 Introduction, to visit Kyushu Ceramic Museum
2	21-Apr Fri	Ⅲ 13:00~14:30	泉山陶土採掘場、有田歴史民俗博物館見学 to visit Izumiyama Quarry and Arita Fork & History Museum
3	12-May Fri	I~IV  9:00~10:00 10:10~11:00 11:15~12:00 13:00~14:15 14:30~16:00	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 有田 vol.1 (フィールドワーク (学外見学一日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.1 (1 day field work in Arita) 柿右衛門窯：Kakiemon (traditional pottery, national treasure 14th Kakiemon) 陶悦窯：Touetsy-kama (pottery) 香蘭社：Kouransha (porcelain manufacture) 田島商店・山辰成型所：Tajima clay factory, Yamatatsu model&mold making factory キハラ・卸団地他：Kihara wholesale company, Arita Toji-no-sato Plaza
4	19-May Fri	Ⅲ~Ⅴ  13:00~14:00 14:15~15:15 15:20~16:50 16:00~17:00	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 波佐見 vol.2 (フィールドワーク (学外見学半日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.2 (0.5 day field work in Hasami) 福稔生地：Fukutoshi raw products making factory 白山陶器：Hakusan Porcelain (porcelain manufacturer) 焼物公園・西の原南倉庫：Open Air Museum of Kilns in Hasami, the shopping place of porcelain 西山：Nishiyama (porcelain manufacture)
5	16-Jun Fri	I~Ⅴ  9:00~10:30 11:30~12:00 13:30~14:30 15:00~16:00 16:30~17:00	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 伊万里・唐津周辺 vol.3 (フィールドワーク (学外見学一日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.3 (1 day field work to Imari and Karatsu) 畑萬陶苑・大川内山見学 ：Hataman-touen (pottery), to see around the porcelain field of Nabeshima domain "Imari Ohkawachi-yama" 作礼窯：Sakurei-kama (pottery) 太郎衛門窯：Tarouemon-kama (traditional pottery) 唐津城：Karatsu-jo (the important castle of porcelain of Karatsu domain in Edo period) 草伝社：Sodensha (the shop of porcelain)
6	14-Jul Fri	Ⅱ 13:00~14:30	プレゼンテーション・ブックレット提出 Short presentation with Booklet



## 2. 平成29年度秋学期（平成29年10月～平成30年3月）

## ■実施概要

平成29年10月にドイツ BURG/Halle よりドイツ人1名の学生を芸術地域デザイン学部芸術表現コース有田セラミック分野にて受け入れた。学生は、必修科目である「自主研究C」と「日本事情研修E」、選択必修の「石膏型成型II」と「装飾技法II」を履修した。

## 春学期入学者（1 国・地域 1 大学 1 人）

	氏名	性別	大学名／国・地域	在籍校での専攻	在学期間
1	Ms. Laura Johanna König	女	BURG/Halle	Ceramics/Glass Design	半年

## 平成29年度秋学期時間割

	月	火	水	木	金
I		(自主研究C)	(自主研究C)		
II	「自主研究C」 全体ミーティング	(自主研究C)	(自主研究C)	SPACE-ARITA 日本事情研修F	
III	装飾技法II	(自主研究C)	(自主研究C)		石膏型成型II
IV	装飾技法II	(自主研究C)	(自主研究C)		石膏型成型II
V		(自主研究C)	(自主研究C)		

## ■「パネルプレゼンテーション」

11月8日（水）16：20～17：50、A101教室にて開催。

SPACE-ARITA 学生に加え、海外交流実習（ドイツ・オランダ）に参加し、BURG/Halle と DAE を訪問し、プレゼンテーションとワークショップを行った本学学生の報告会も兼ねた。実際に両校を訪問した本学学生の感想も聞き、実りある交流の場となった。

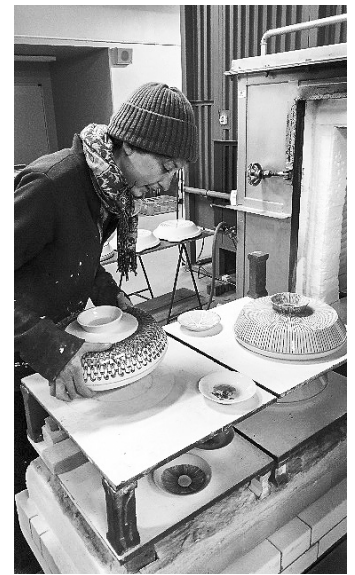




■ 「自主研究C」

1 Ms. Laura Johanna König

「STEAM」  
調理した後にそのままテーブルに提供できる蒸し器を製作した。その構造やサイズは流通しているフライパンや鍋の上において使用できるように機能的に考えられており、日本の食文化に適用できるよう試みている。



## ■ 「日本事情研修E」

オリエンテーションで学生に配布する、秋学期の見学等を記した予定表は以下の表の通りである。

日本事情研修予定表：The schedule of “Field work on Japanese affairs” 2017

	日	時限	内容
1	5-Oct Thu	Ⅲ 13:20～15:30	オリエンテーション・泉山陶土採掘場、有田歴史民俗博物館見学 Introduction, to visit Izumiyama Quarry and Arita Fork & History Museum
2	11-Oct Wed	Ⅰ・Ⅱ 13:00～14:30	佐賀県窯業技術センター、九州陶磁文化館見学 to visit Saga Ceramics Research Laboratory and Kyushu Ceramic Museum
3	19-Oct Thu	Ⅱ～Ⅴ 10:30～11:30 13:15～14:30 15:00～16:20 16:30～17:10	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 有田 vol. 1 (フィールドワーク (学外見学一日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.1 (1 day field work in Arita) 深川製磁：Fukagawa Seiji (porcelain manufacturer) 十社：Jussya (potteries which jointly manages a factory) 田島商店・山辰成型所：Tajima clay factory, Yamatatsu model & mold making factory 百田陶苑・卸団地他：Momota-Touen wholesale company, Arita Toji-no-sato Plaza
4	9-Nov Thu	Ⅲ～Ⅴ 13:00～13:40 14:00～15:00 15:15～16:00 16:15～16:40 16:50～18:00	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 有田 vol. 2 (フィールドワーク (学外見学半日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.2 (0.5day field work in Hasami) 佐藤生地：Satou raw products making factory 白山陶器：Hakusan Porcelain (porcelain manufacturer) 中善：Nakazen-kama (porcelain manufacturer) 木村鋳込：Kimura raw products making factory 焼物公園・西の原南倉庫： Open Air Museum of Kilns in Hasami, the shopping place of porcelain
5	30-Nov Thu	Ⅰ～Ⅴ 9:00～10:30 11:20～12:00 14:00～15:00 15:30～17:00	肥前地区の焼物産業について学ぶ - 伊万里・唐津周辺 vol. 3 (フィールドワーク (学外見学一日研修)) to study porcelain industry in Hizen district vol.3 (1 day field work to Imari and Karatsu) 畑萬陶苑・大川内山見学 ：Hataman-touen (pottery), to see around the porcelain field of Nabeshima domain “Imari Ohkawachi-yama” 川上清美陶房：Kawakami Kiyomi-toubou (pottery) 殿山窯：Tonoyama-kama (pottery) 名護屋城博物館： Nagoya-jo Museum and Nagoya-jo ruins (the important castle of porcelain of Karatsu domain in Edo period)
6	22-Dec Fri	Ⅱ 10:00～11:30	プレゼンテーション・ブックレット提出 Short presentation with Booklet





また、彼女は本学学生とも積極的に交流し、クリスマスにはドイツ式のクリスマスパーティーやバインディングワークショップを自ら企画するなど、学生らにも大変馴染んでいた。



### 1.3 平成29年度日本語・日本文化研修コース

#### ■コース概要

本学の日本語・日本文化研修コースは、研修生が自らの日本語能力を伸ばすだけでなく、日本人学生と共修することによって、広く日本文化や地域のことを学べるコースとなっている。具体的には、全学教育機構が提供する「外国人留学生プログラムのための日本語科目」や日本人学生との共修科目である「インターフェース」、また自分の興味に応じた授業を、佐賀大学の各学部提供科目のなかから選んで履修することができる。これは平成25年度の改革によるもので、これにより、幅広い専門をもった学生が、自分の興味関心に応じた科目を履修することができるようになった。

下記の単位を修得すると、修了時に、佐賀大学から修了証が授与される。

区 分		授業科目名	単位数	修了要件
教養教育科目	外国人留学生プログラムのための授業科目		/	選択必修 6単位以上修得すること
	インターフェース科目			選択必修 2単位以上修得すること
学部間共通 教育科目	留学生プログラム教育 科目	日本事情研修A	2	選択必修 2単位以上修得すること
		日本事情研修C	2	
		日本事情研修B	2	
		日本事情研修D	2	
全学教育機構が開設する授業科目			/	選択必修 6単位以上修得すること
各学部が開設する授業科目				
計				18単位以上

### ■コーディネーター

中山 亜紀子 准教授（全学教育機構）

布尾 勝一郎 准教授（全学教育機構）

### ■開講期間

平成28年10月～平成30年 8月

### ■実施概要

平成29年度は、28年度後期から在籍していたラオス国立大学（ラオス）の研修生が佐賀大学で学んだ。自分の留学目的や興味に応じた授業を履修し、インターフェース科目にも積極的に参加し、無事に修了した。加えて、日本語のコミュニケーションに関する調査を行い、日研生レポートを作成した。なお、当該学生は、帰国後にも日本への関心を持続させ、山形県の大学院に留学している。

平成29年度後期からは、ヴィタウタスマグヌス大学（リトアニア）からの日研生を1名受入れた。受入れ学部は、教育学部である。現在は、日本語の能力を伸ばしつつ、日本人学生との共修授業に参加するなど積極的に活動し、日本社会への理解を深めている。また、SPACE-Eの日本事情研修を履修し、留学生同士、あるいは日本人学生との交流を図っている。

#### 平成28年度日本語・日本文化研修コース受講生（平成28年10月～平成29年 8月）

国名	性別	受入学部	大学名	推薦枠
ラオス	男	教育学部	ラオス国立大学	大学

#### 平成29年度日本語・日本文化研修コース受講生（平成29年10月～平成30年 8月）

国名	性別	受入学部	大学名	推薦枠
リトアニア	女	教育学部	ヴィタウタスマグヌス大学	大学



名護屋城博物館

#### 1.4 平成29年度日本語研修コース

【開講期間】平成29年4月7日～8月7日（前期）、10月2日～平成30年2月15日（後学期）

【コーディネーター】吉川 達 講師（全学教育機構）

##### 【概要】

日本語研修コース対象の学生のために、大学院入学前予備教育としての日本語科目を提供している。対象は主に国費外国人留学生であるが、私費留学生についても受講を認めている。日本語初級前半・初級後半・初中級までの3レベルを想定し、受講学生は学期開始時のプレースメント・テストによってレベル判定が行われる。各レベルで実施される日本語授業は以下の通り。

#### 初級前半レベル（8コマ）

- ・日本語文法初級Ⅰ 3コマ
- ・日本語会話初級Ⅰ 2コマ
- ・日本語漢字語彙初級Ⅰ 1コマ
- ・生活基礎日本語 1コマ（集中）
- ・日本語演習（A）／（C） 1コマ

#### 初級後半レベル（8コマ）

- ・日本語文法初級Ⅱ 3コマ
- ・日本語会話初級Ⅱ 2コマ
- ・日本語漢字語彙初級Ⅱ 1コマ
- ・日本語演習（A）／（C） 1コマ
- ・日本語演習（B）／（D） 1コマ

#### 中級前半レベル（9コマ）

- ・日本語文法中級Ⅰ 2コマ
- ・日本語会話中級Ⅰ 2コマ
- ・日本語漢字語彙中級Ⅰ 1コマ
- ・日本語読解作文中級Ⅰ 1コマ
- ・日本語聴解中級（A）／（B） 1コマ
- ・日本語演習（A）／（C） 1コマ
- ・日本語演習（B）／（D） 1コマ

## 1.5 Saga University Autumn Program (SUAP) 2017

【実施期間】平成29年11月21日～12月7日（17日間）

【参加学生】ラトローブ大学生7名、シドニー工科大学学生5名、佐賀大学生12名

【担当教員】山田 直子 准教授（国際交流推進センター） 布尾 勝一郎（全学教育機構）

### 【概要】

オーストラリアの協定校に所属する留学生12人を迎え、オータムプログラムを実施した。今年度は秋の開催となったため、オーストラリアの協定校のみが参加対象となった。今年度は「日本の伝統文化の知と技の継承」をテーマとし、本学に所属する学生13名と共に有田焼、佐賀錦、和菓子、嬉野茶、弓野人形について、生産者、職人、市民団体など知識や技術の継承に携わる専門家やそれを支える地域の人々との交流を通して学習した。留学生とともに日本文化を学ぶ機会は日本人学生にとっても、新たな発見と内省につながった。

留学生は上述の活動に加え、日本語授業15コマに参加した（単位付与なし）。街を歩く、外食をする、ホームステイの日本語など、留学中に使う日本語を中心に学んだ。また日本語授業に日本人学生ボランティアが参加し多くの交流の機会を得た。さらに本学の学生グローバルリーダーズがコーディネートし、課外活動（よさこい、茶道）を体験した。

週末に実施した多文化合宿では、それまでの活動の振り返りディスカッション、野外炊飯などを行った。宿泊研修は学生同士の距離感を縮め、特に日本人学生は英語に苦勞しながらも異文化コミュニケーションの楽しさを実感することで積極性が増していく様子が見られた。プログラム終盤では、グループによるフィールドワークを



行なった。日本文化に関連するテーマと調査場所を自分たちで決め、参与観察や聞き取り調査などを行なった。その結果は最終日の成果報告会にてグループで発表した。

前年度からの改善点は、佐賀大学のプログラム参加は、教養教育科目の「グローバルリーダーシップ（集中講義）」として履修し、2単位が付与されるようになったことである。これにより留学生と交流したり、支援を行う「バディ」としての立場に加え、共に学習する仲間となり真剣に取り組む姿が見られた。

2013年から開始した本プログラムは今年で5回目を迎えた。本プログラムの目的の一つである派遣枠の拡大については、ラトローブ大学との協議により、先方の学生受入5名につき、本学学生を1名（1学期）派遣できるとする合意に至った。本プログラムの成果と持続可能性について精査をしたい。

### 【プログラムスケジュール】

#### 佐賀大学オータムプログラム2017 Creating Innovation for Sustainability in Knowledge and Workmanship of Japanese Culture

		November 20 (Mon)	November 21 (Tue)	November 22 (Wed)	November 23 (Thu)	November 24 (Fri)	November 25 (Sat)	
WEEK 1	Morning	Arrival	10:30 - 12:00 OPENING CELEMONY AND ORIENTATION	にほんご - 1 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	SUSTAINABILITY IN TRADITIONAL KNOWLEDGE AND WORKMANSHIP - 1	にほんご - 2 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	SUSTAINABILITY IN TRADITIONAL KNOWLEDGE AND WORKMANSHIP - 2	
	Lunch		12:00 - 13:00 WELCOME LUNCH	FREE TIME		FREE TIME		
	Afternoon		14:00 - 15:30 CAMPUS TOUR with Global Leaders					
WEEK 2	Morning	November 26 (Sun)	November 27 (Mon)	November 28 (Tue)	November 29 (Wed)	November 30 (Thu)	December 1 (Fri)	December 2 (Sat)
	Lunch	SUSTAINABILITY IN TRADITIONAL KNOWLEDGE AND WORKMANSHIP - 3	にほんご - 3 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	にほんご - 4 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	FIELDWORK ON GLOBALIZATION AND JAPANESE CULTURE	にほんご - 5 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	にほんご - 6 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	HOME STAY
	Afternoon		13:00 - 17:00 VISITING SAGA AGRICULTURAL HIGH SCHOOL	16:30 - 18:30 JOIN IN STUDENT CLUB Yosakoi Dance		FREE TIME	13:00 - 16:10 JOIN IN STUDENT CLUB Tea Ceremony Experience	
WEEK 3	Morning		December 3 (Sun)	December 4 (Mon)		December 5 (Tue)	December 6 (Wed)	
	Lunch	HOME STAY	にほんご - 7 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	にほんご - 8 8:50 - 10:20 10:30 - 12:00	PREPARATION FOR GROUP PRESENTATION	FREE TIME	DEPARTURE	
	Afternoon	FREE TIME	FREE TIME	12:00 - 13:00 FINAL PRESENTATION		13:30 - 14:00 CLOSING CELEMONY		14:00 - 15:30 FAREWELL PARTY



オープニングセレモニー



日本語授業



佐賀錦体験



多文化合宿



嬉野茶講習



よさこいサークル参加



成果発表

## 1.6 香港中文大学学生交流プログラム（短期受入れ）

### 香港中文大学サマープログラム

【実施期間】平成29年7月5日～7月14日（10日間）

【参加学生】香港中文大学生8名、佐賀大学生10名

【担当教員】吉川 達 講師（全学教育機構）、山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

#### 【概要】

同年2月に実施された香港への派遣プログラムで交流した香港中文大学生を佐賀で受入れ、サマープログラムを実施した。例年はSUSPが同時期に実施されるため、一部SUSPと合同で行う活動があったが、本年度はSUSPの実施時期が変わったために、本サマープログラム単独での実施となった。また、例年香港中文大学からは10名の学生が参加するが、本年度は8名での参加となった。

プログラム内容としては、佐賀大学生との交流、佐賀の伝統文化施設、史跡等の見学、佐賀大学の授業参加、自主課題調査、合宿、高校訪問である。

交流する佐賀大学生は、同年2月に香港を訪問し、今回受入れた香港の学生達と交流した学生である。久しぶりの再会を喜ぶとともに、佐賀大学生たちは自分たちがホストの役割となることに、責任を感じていた。

香港中文大学生は佐賀大学生の助けを借り、自分たちの設定した自主課題調査のテーマについて調査し、プログラムの最後に「応用言語学」の授業で日本人学生を前に成果を発表した。自主課題のテーマは「佐賀の祭り」「佐賀の方言」「佐賀の食文化／習慣」「佐賀のアニメの聖地」であった。本年の香港中文大学生は日本語レベルが高い学生が多く、発表に参加した佐賀大学生からの質問にも淀みなく日本語で答えていた。

合宿では、佐賀大学の合宿研修所のある神集島を訪れた。神集島では天候も良く、釣りや島の探索、バーベキューなど、都会育ちの香港中文大学生にとって非日常の体験を佐賀大学生とともにに行った。1泊2日の限られた時間であったが、昼も夜もなく島という孤立した場所で学生同士が交流することが、学生間のつながりをより深いものにしていくようであった。

高校訪問では、武雄高校を訪れ、交流活動を行った。武雄高校の1年生の英語の授業に参加し、ゲームや香港紹介を行った。また放課後の部活動を見学し、日本の高校文化を体験した。交流した高校生は1年生ということ



もあり、恥ずかしがりながら話しかける生徒が多かったが、香港中文大学生がリードして会話を進める場面も多く見られた。交流言語は英語であった。

プログラムの内容は基本的に前年度を踏襲したものであったが、前年度の香港中文大学生の意見を踏まえて鹿島でのミニガタリンピックを省くなど、変更した部分もあった。今後も香港中文大学の担当者や学生の意見を聞きながら活動内容を検討していく予定である。



神集島での合宿



武雄高校訪問

## 1.7 留学生交流支援事業

### 1.7.1 短期留学生受入れ支援事業

(1) 平成29年度佐賀大学短期留学生受入支援事業（申請5件中3件採択）

No	プログラム名	申請者	申請者 所属・職	受入学生交流大学・機関名 (出身国)	支援 人数	対象学生	研修期間	助成額
1	佐賀大学経済学部 国際教育交流事業「持続可能な生産と消費に関する学生間の国際教育研究交流」	サーリヤ ディ シルバ	経済学部・ 教授	ペラデニア大学 (スリランカ) カセサート大学 (タイ)	10	学部3・4年	6日間	700,000円
2	環アジア国際セミナー（グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用に関わる建築・都市デザインワークショップ）	三島 伸雄	工学系研究 科・教授	タマサート大学 (タイ) カザフ建築土木アカデミー (カザフスタン) タンリン工科大学 (ミャンマー)	10	建築プランニング学部、建築学部4年・ 修士1年	8日間	700,000円
3	日米学生が協働で学ぶ、佐賀の伝統美と平和教育	早瀬 博範	全学教育機 構・教授 (併任)	スリッパリーロック大学 (アメリカ)	5	日本語学科	14日間	350,000円
合計					25			1,750,000円

## 【採択プログラムの成果報告】

### 1. サーリヤ ディ シルバ（経済学部）佐賀大学経済学部国際教育交流事業「持続可能な生産と消費に関する学生間の国際教育研究交流」

本プログラムの特色は、①国際学生シンポジウム、②講義、③フィールド調査について、内容をリンクさせ、学生がこの①②③の関係性を理解し易いよう配慮している点にある。

①でカセサート大学5名とペラデニア大学9名、佐賀大学5名（うち留学生1名）による報告があり、課題に対して高い関心を持つ海外の学生と佐賀大学の学生や地域住民とが共に学ぶことによって、質の高い知識を効果的に提供できたと考える。また、①、②、③を通して参加したカセサート大学経済学部とペラデニア大学農学部の学生および佐賀大学経済学部が、将来、地域農業の指導や政策立案で優れた活動ができるようになることが期待できる。

これらは、カセサート大学とペラデニア大学は本学との交流協定に基づき、長く学生の相互交流を行ってきており、学生が安心安全で快適な環境での本プログラムの実習ができ、学内外から有益なサポートが得られることに関係している。

参加したカセサート大学とペラデニア大学は、ホームステイ家族など地域住民との交流で、佐賀（日本）に來なければわからなかった歴史的、社会的、文化的なさまざまなことを経験し、帰国後の彼らの活躍が国の発展につながるが見込まれる。一方、佐賀大学生は経済学部の学生で、佐賀およびアジアの途上国について経済的な視野から見識を広めることができた。また、国際交流実習の経験者が多かったため、学識高い留学生と国際交流に関心がる佐賀大学生とが一緒に学んだことによって、留学を視野に入れた今後の学生生活への影響が期待でき、将来につながる交流になった。

### 2. 三島伸雄教授（工学系研究科）環アジア国際セミナー（グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用に関わる建築・都市デザインワークショップ）

佐賀大学（日本人学生14名・留学生11名）も含めて、5カ国6大学から合計64名が参加し、鹿島市肥前浜宿に宿泊しながら建築・都市デザインの国際ワークショップ（肥前浜宿に対する提案とその発表）を実施した。参加学生の国籍13カ国に渡る。「グローバル社会に向けた文化多様性を鑑み、歴史的環境を継承しながら地域を再生する計画・デザイン手法の可能性と意義を学び、多様な国籍の学生間で共有する」という目的については、達成できた。「国際性豊かな感覚を有し、異なる多様な文化を受け止め、地域の特質を理解し、多様な国籍の学生と議論し、デザイン性豊かな提案ができるような建築・都市デザイン分野の学生を輩出する」という目標についても、学生の満足度も高く、達成できた。

国の重要伝統的建造物群保存地区に2地区選定されている鹿島市肥前浜宿の町並みにおいて、地元住民（NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、区長会他）及び鹿島市の協力を得て、公民館や伝統的建造物に民泊しながら、現地調査を行い、提案物（模型並びにPPT）を作成し、地元住民に対しても発表会を行った。内閣府のまち・ひと・しごと創生本部からの出向者もいて、国際的に行なっていることに強い関心を持ってもらえた。参加学生たちも、地域の悩みに正面から対応しながら、同じ建物の中で5泊6日共同生活し、集中的に国際交流をすることができ、佐賀市内においては学生の部屋にホームステイすることを斡旋したため、学生同士の関係も強まった。

### 3. 早瀬博範教授（全学教育機構）日米学生が協働で学ぶ、佐賀の伝統美と平和教育

アメリカの学生一人に対して本学の学生2名をランゲージパートナーとして配置したことで、両者の交流も深められた。しかもランゲージパートナーとなった学生は、本年9月にはスリッパリー大学に派遣され、研修をする予定であり、そこでのランゲージパートナーになる学生達なので、両者が実質的で継続的な友好関係が構築できる。

基本的には、体験型で学習ができる機会を作っている。茶道、陶芸などの体験研修、小中高へ実際に授業訪問し、児童生徒と触れ合いながら、日本の教育の実態を体験しながら、日本の教育についての理解を深めるとともに、交流を行い、両者の理解を促進できた。

平和教育に関しても、実際に長崎市を訪問し、被曝の事実を通して、日米及び世界の平和について、日米の学生同士でディスカッションを行い、理解を深めることができた。

### 1.7.2 特別聴講学生・特別研究学生等学習奨励費支援事業

(2) 平成29年度佐賀大学特別聴講学生・特別研究学生等学習奨励費支援事業（採択7件）

No	申請者	プログラム名	国名	出身大学	支給期間
1	Irnayanti Dwi Kusma	SPACE-E	インドネシア	ブラウイジャヤ大学	1年間
2	Siti Rizkyna Noorsaly	SPACE-E	インドネシア	ランブンマンクラット大学	1学期間
3	Tiamtad Kamonwan	SPACE-E	タイ	コンケン大学	1学期間
4	Doni Putra Purbawa	SPACE-E	インドネシア	ブラウイジャヤ大学	1学期間
5	Zhang Binqian	SPACE-E	中国	温州大学	1学期間
6	Sittichoke Ketkaeo	特別研究学生	タイ	カセサート大学	1年間
7	Korsakaite Ruta	特別研究学生	リトアニア	ヴィタウタスマグヌス大学	1学期間

## 2. 学生の海外派遣

### 2.1 本学学生の海外派遣概況

本年度の海外協定校等への学生派遣総数は261名であった。平成28年度の派遣が266人であるため、5人減となった。国際交流推進センターが設置された平成23年以降、派遣人数が急増したが、過去2年間は横ばい傾向にある。本学の派遣制度は学部1～2年生を主な対象とした異文化コンピテンシーや語学能力の向上を目指す短期研修、学部・研究科が協定校等との連携により実施する専門的な知見や技能の習得を目的とする学部・研究科プログラム、3ヶ月以上の海外留学制度やトビタテ地域人材コースを活用してのインターンシップや研究を目的とした留学など、多様な学生のニーズに対応することができるようになっている。とりわけセンターが実施する短期の派遣プログラムについては、学生自身が学生生活における目標を早期に明確化し、学習に対するモチベーションの向上に繋げられるよう、本年度より派遣対象を学部1～2年生を集中させ、JASSOや本学独自の奨学金による経済的支援を強化した。課題としては短期留学に比べ、3ヶ月以上の留学を実現する学生の伸びが鈍いことである。とりわけ、佐賀県内の企業におけるインターンシップと留学が組み合わせられたトビタテ地域人材コースについては、豊富な経済的な支援が提供されるにも関わらず、応募者が期待していたほど増えていない。広報活動の強化に加え、関心のある学生へのコーチングが課題である。

### 2.2 交換留学生の派遣

平成29年度はアメリカ、フランス、ドイツ、リトアニア、フィンランド、オーストラリア、中国、韓国、台湾、タイ、スリランカの11カ国に21人を派遣した。派遣学生の所属は教育学研究科1人、工学系研究科1人、文化教育学部6人、経済学部7人、農学部6人であった。これまで農学部に所属する学生の交換留学はほとんど無かったが、今年度は6人となり、半数は学部2年生で出発する学生となっている。

■平成24年～29年の交換留学派遣実績

国名	派遣先大学	H24	H25	H26	H27	H28	H29	6年間の累計
アメリカ	スリッパリーロック大学	2	2	2	2	3	1	12
	パシフィック大学	1	2	1	1	1	1	7
カナダ	ウィルフリッドロリエ大学	0	2	1	0	0	0	3
	マニトバ大学	0	0	0	0	1	0	1
イギリス	イーストアングリア大学	0	0	0	0	1	0	1
フランス	オルレアン大学	2	1	0	1	0	2	6
	ブルゴーニュ大学	1	1	1	1	0	0	4
ドイツ	ドレスデン工科大学	0	0	0	0	2	1	3
リトアニア	ヴィータウタスマグナス大学	0	1	1	1	2	2	7
フィンランド	ユバスキュラ大学	0	1	1	1	1	3	7
オーストラリア	ラトロープ大学	0	1	0	1	0	1	3
	シドニー工科大学	2	2	1	2	1	0	8
中国	北京工業大学	4	2	0	3	6	1	16
	浙江理工大学	0	1	1	0	0	0	2
	浙江科技学院	0	0	0	0	0	1	1
	華東師範大学	1	0	0	0	0	1	2
韓国	国民大学校	2	2	1	4	4	0	13
	大邱大学校	0	0	1	0	1	0	2
	培材大学校	0	0	0	0	1	0	1
	釜山大学校	1	0	0	0	0	1	2
	釜慶大学校	0	1	0	0	0	0	1
	全南大学校	2	0	0	0	1	0	3
台湾	国立政治大学	0	2	2	2	1	1	8
	国立東華大学	0	0	0	0	0	1	1
	国立中興大学	0	0	0	1	0	1	2
ベトナム	ハノイ国家大学外国語大学	1	0	0	0	0	0	1
タイ	タマサート大学	0	0	1	2	0	0	3
	カセサート大学	0	0	1	0	0	2	3
	チェンマイ大学	0	1	0	0	0	0	1
スリランカ	ペラデニア大学	2	1	1	0	0	1	5
計		21	23	16	22	26	21	129

交換留学制度の中に、平成25年度に開始した「アジアで活躍できるリーダー養成プログラム」がある。このプログラムはアジアの専門の授業履修や語学学習に加え、派遣先国の視点からその国の制度や習慣、人々の行動様式などを理解するための研究や課外活動を組み込んでいる。本プログラムは開始から5年が経過し、参加した学生数は50人に達した。現地での学習や活動が帰国後の学生生活において、さらには卒業後のキャリアにどのような影響を与えたのかについての検証を今後実施したい。交換留学を希望する学生が、留学への意欲を持続させ、家族や指導教員、部活の友人など周囲の人間を説得したり、語学の条件満たすなど、ハードルを一つ一つクリアし、留学を実現させるためには、入学後のなるべく早い時期に学内外のプログラムを通して異文化や海外へ関心



を高め、語学の学習や大学選びなど留学準備を早期に始められるか否かが鍵である。大学は留学情報の効果的な発信、留学先の多様化、短期プログラムや共修授業の参加による動機づけ、経済的支援、学生コミュニティづくりなど包括的な支援を行うことが重要であると思われる。

なお、本年度の派遣交換留学生の奨学金受給状況については、JASSO 海外留学支援制度奨学金、本学校友会奨学金及び佐賀大学海外派遣奨励費、ERASMUS+奨励金等により、平成29年度の奨学金受給率は95%であった。

#### ■平成29年度に本学から派遣された交換学生（11カ国・地域 16大学 21人）

派遣国	派遣先大学名	性別	所属	派遣時の学年	派遣期間	奨励金
アメリカ	スリッパリーロック大学	男	農学部	2	平成29年8月～平成30年5月	校友会
	パシフィック大学	女	経済学部	4	平成29年8月～平成29年12月	佐賀大学奨励金
ドイツ	ドレスデン工科大学	男	工学系研究科	2	平成29年7月～平成29年12月	Erasmus+
フランス	オルレアン大学	女	文化教育学部	3	平成29年9月～平成30年5月	佐賀大学奨励金
		女	文化教育学部	4	平成29年9月～平成29年12月	佐賀大学奨励金
フィンランド	ユバスキュラ大学	男	教育学研究科	2	平成29年9月～平成29年12月	校友会
		女	文化教育学部	3	平成29年9月～平成29年12月	校友会
		女	文化教育学部	4	平成29年9月～平成30年5月	佐賀大学奨励金
リトアニア	ヴィタウタス・マグヌス大学	女	文化教育学部	4	平成29年9月～平成30年1月	Erasmus+ 佐賀大学奨励金
		男	農学部	3	平成30年1月～平成30年12月	校友会
オーストラリア	ラトロープ大学	女	文化教育学部	4	平成29年7月～平成29年11月	なし
中国	北京工業大学	女	経済学部	4	平成29年9月～平成30年1月	佐賀大学奨励金
	華東師範大学	男	経済学部	2	平成29年9月～平成30年6月	佐賀大学奨励金
	浙江科技学院	男	経済学部	3	平成29年8月～平成30年1月	佐賀大学奨励金
韓国	釜山大学校	女	農学部	3	平成30年3月～平成30年12月	JASSO
スリランカ	ペラデニア大学	女	農学部	3	平成30年3月～平成31年2月	JASSO
タイ	カセサート大学	女	農学部	2	平成29年8月～平成29年12月	佐賀大学奨励金
		女	経済学部	3	平成30年1月～平成30年12月	JASSO
台湾	国立政治大学	女	経済学部	3	平成29年9月～平成30年6月	JASSO
	国立東華大学	女	経済学部	3	平成29年9月～平成30年6月	JASSO
	国立中興大学	女	農学部	2	平成30年3月～平成30年6月	JASSO

佐賀大学奨励費：佐賀大学学生海外派遣奨励金（1年間30万円、1月期間15万円（一時金））

校友会：佐賀大学校友会海外派遣奨励金（1年間30万円、1学期間15万円（一時金））

JASSO：JASSO 海外留学支援制度（韓国7万円）、中国6万円（月額）

Erasmus+：EU（800ユーロ（月額）・1,000ユーロ（渡航費））

## 2.3 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムによる海外派遣

「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」は平成26年度に開始した官民協働で取り組む海外留学支援制度で、希望学生は大学を通じて申請を行う。海外協定校が提供する教育プログラムに参加する交換留学とは異なり、留学先は大学に限定されず、また現地での学習や実践活動を自ら計画しなければならない。独創的な留学計画を立てられるが、アイデアを計画書という形にする作業に苦勞する学生多い。自主性や積極性だけでなく、インターパーソナルコミュニケーションや問題解決能力などが計画書作成時にすでに求められている。本学では、第1期に3人の学生が採択され、インド・ケニア、インドネシア、ミャンマーへの留学を実現させた。平成29年度は17件の応募に対し10件が採用となり、うち8件が実際に諸外国にてそれぞれの目的に応じた実践的な学修活動に従事した。

### ■平成29年度の派遣留学生（計8件）

留学期間	学部・研究科	学年	派遣先国	コース	留学計画のタイトル
2017. 4 ～2018. 3	地域デザイン研究科	1	アメリカ	理系、複合・融合系人材	新たな都市編集手法「アーバン・カタリスト」のケーススタディ
2017. 8 ～2017. 12	農学部	3	フィリピン	理系、複合・融合系人材	アジアの基盤！今後のイネの抵抗性品種による可能性
2018. 3 ～2019. 3	農学部	2	オランダ	理系、複合・融合系人材	テクノロジーと融合させた革新的な農業によりこれからも安心して食を楽しめる世の中へ
2018. 3 ～2019. 3	農学部	2	ドイツ	理系、複合・融合系人材	人々の心を豊かにする農業コンサルタントへの道
2017. 9 ～2017. 10	理工学部	4	オランダ	地域人材	オランダ（ロッテルダム、アムステルダム）で、水環境における上手な都市計画を学ぶ。
2018. 3 ～2018. 9	経済学部	2	フランス	地域人材	唐津と世界の架け橋になるため
2017. 12 ～2018. 3	経済学部	3	イスラエル	地域人材	スタートアップ大国イスラエルからビジネスを世界展開する仕組みを学ぶ
2017. 9 ～2017. 10	経済学部	4	ミャンマー タイ	地域人材	ミャンマーから繋がる佐賀～フェアトレード×ソーシャルビジネス～

※所属・学年は採用時点

## 2.4 Saga University Study Abroad Program (SUSAP)

SUSAP 佐賀大学短期海外研修プログラムは、平成25年度より本格的な実施を開始した全学の学生を対象とする短期の留学プログラムである。本プログラムは、外国語の運用能力を高めるだけでなく、海外協定校等での講義や現地学生・海外からの留学生との共同活動や意見交換、一般市民との交流を通して、現地の社会や文化、生活習慣を学び、多様な文化や価値観を理解するとともに、国際的な視野を育むことを目指している。平成29年度に実施したプログラムは以下の表の通りである。10プログラムを実施し、6カ国・地域10大学に104人を派遣した。さらに、本年度よりスタートアップ支援の一つとして、本プログラムに参加した学生に対し、帰国後、TOEFL-ITP等の語学試験の受験料助成を開始した。これは留学の成果を測定する一つの物差しとして語学試験に挑戦すること、そのために必要な語学学習を帰国後も継続することを促す意味がある。語学試験受験料の助成を受けた学生は36人（TOEFL-ITP21人、HSK11人、ハングル検定4人）となった。助成を受けた学生のうち5人が交換留学を実現もしくは予定者となっており、一定の効果がみられる。

## ■平成29年度実施のプログラム

SUSAP 2017 Summer	国・地域	期間	人数	単位付与
大邱大学校プログラム	韓国	3週間	10	あり
釜慶大学校プログラム	韓国	2週間	6	なし
北京工業大学プログラム	中国	3週間	7	あり
シドニー工科大学プログラム	オーストラリア	5週間	16	あり
中興大学プログラム	台湾	3週間	10	あり
DREaM プログラム (ガジャマダ大学)	インドネシア	18日間	10	あり
計			59	
SUSAP 2018 Spring	国・地域	期間	人数	単位付与
東華大学プログラム	台湾	1ヶ月	8	あり
香港中文大学学生交流プログラム	中国	10日間	10	あり
浙江理工大学プログラム	中国	1ヶ月	12	あり
フィールドスタディ in チェンマイ (チェンマイ大学)	タイ	2週間	15	あり
計			45	

これらのプログラムは学生個々の学習進度、語学力、関心、キャリアプラン等にあわせて選択できるように設計している。さらに本年度からは、学部1、2年生の短期留学派遣の強化を開始した。入学後のなるべく早い段階で、海外での学習経験や異文化交流の機会を、アジア留学を通して獲得することを推奨している。本プログラムは「スタートアップアジアで活躍できるリーダー養成プログラム」として、学部1～2年生を対象にJASSO奨学金を支給してアジアの協定校へ派遣している。外国語の運用能力を高めるだけでなく、現地の学生と一緒に講義を受けたり、フィールドワークやボランティア等の活動を通して留学先の社会や文化、生活習慣を学びながら国際的な視野を育むことを目指している。参加者の傾向としては、派遣学生の69%が女子学生で、平成28年度の68%とほぼ同じ結果となった。学年別では、一昨年と同様に学部1～2年生の参加が全体の90%(H27年度75%、H28年度85%)を占めており、その割合が年々増加している。以下に平成29年度に国際交流推進センターが実施した14のプログラムの概要を紹介する。

## 2.4.1 大邱大学校プログラム (韓国)

## ■概要

大邱大学校への学生派遣は今年で5回目となった。海外協定校の学生を対象として毎年開催されるサマープログラムで、韓国語の授業と韓国文化体験、大邱近郊へのスタディートリップ等の機会が提供される。留学開始前の事前研修の一環として、7月に大邱大学校国際関係学科からの学生訪問団(学生10名、教員1名)を受入れ、双方の地域や大学の紹介、交流を行った。現地での研修は、レベル分けされた韓国語クラスに毎日3時間ほど参加するとともに、韓国文化体験、大邱やその近郊の街への視察などが組み込まれている。韓国人の講師による韓国語のみを使った韓国語講座は学生の満足度を上げている要因の一つであり、学習意欲を大いに高め、帰国後も独学で韓国語学習に励む学生もいる。本年度の特徴は、参加者が学部1～2年生で、全員がJASSO奨学金を受給した点である。加えて、大邱大学校により授業料が免除された。

■担当教員 山田 直子 准教授(国際交流推進センター)

■実施期間 平成28年8月6日～26日(3週間)

■単位付与 海外交流実習(基本教養科目)2単位(10人)

■参加学生 10人

学部・研究科	学 年	人 数
経済学部	1年	1
経済学部	2年	3
理工学部	1年	5
農学部	2年	1

## 2.4.2 釜慶大学校プログラム（韓国）

### ■概 要

釜慶大学校プログラムが実施するサマープログラムへの派遣で、本年度初めて学生のグループを派遣した。本プログラムは、英語が教授言語となる「韓国語と韓国文化」と日本語による「国際関係」の2つコースから学生は選択することができる。午前中に各自が選択したコースの授業に参加し、午後は韓国茶道や伝統音楽などのワークショップに参加するという構成になっている。韓国語のコースは初心者向けのもので、レベル分けがなされていないため、韓国語の既習者にとっては物足りないものとなってしまった。しかし、現地のプログラムには日本の他大学からの留学生に加え、釜慶大学校の学生も多く参加することから、学生交流が大変充実していたという感想が聞かれた。また、現地では当時交換留学中の本学学生3人との交流会を行い、日本人学生からみた韓国社会や文化について、交換留学としての韓国生活について意見交換を行った。派遣学生の2名については、釜慶大学によるプログラム費、寮費の全学免除を受け、そのほかの学生についてはJASSO奨学金（2人）と佐賀大学助成（2人）となった。

■担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

■実施期間 平成29年8月6日～19日（2週間）

■単位付与 なし

■参加学生 6人

学部・研究科	学 年	人 数
経済学部	2年	3
経済学部	3年	1
理工学部	2年	1
農学部	2年	1

## 2.4.3 北京工業大学プログラム（中国）

### ■概 要

本プログラムは今年度初めての実施である。これまで多くの交換留学生を北京工業大学へ派遣しており、学生による現地の中国語教育の評価は非常に高い。そこで、3週間の中国語及び中国文化社会のプログラムを提供していただいた。プログラムでは、日本の他大学の学生とともに中国語の授業を午前受講し、午後は切り絵、中国書道、太極拳などのワークショップに参加した。北京という土地柄、数多くの観光地を巡る機会も得て、参加学生は教室内外での活動を通して様々な物に触れ、経験し学習することができた。北京工業大学に交換留学中の本学学生がピアサポーターとして活躍してくれた。本プログラムに参加した学生のうち6人がJASSO奨学金、



1人が本学の助成金を受給した。

■担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

■実施期間 平成29年8月6日～26日（3週間）

■単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（7人）

■参加学生 7人

学部・研究科	学 年	人 数
理工学部	1年	2
理工学部	2年	1
医学部	1年	1
芸術地域デザイン部	1年	1
農学部	1年	1
農学部	2年	1

#### 2.4.4 シドニー工科大学プログラム（オーストラリア）

##### ■概 要

本プログラムは、シドニー工科大学の一つの教育組織 UTS Inseach という機関において実施されている ELIOS（English Language Intensive Course for Overseas Students）に学生を派遣した。学生の英語能力に応じて、學術英語コースもしくはジェネラル英語コースに配置され、週20時間の授業に参加した。これまでシドニー工科大学から交換留学生やサマープログラム生を継続して受入れている実績もあり、アジア研究の担当教員や現地の日本語教員の協力を得て、バディプログラムを実施することができた。本学の方で作成したチラシを日本語授業履修者に配布してもらい、多くのシドニー学生がバディに応募してくれたため、本学学生1名に対し、2名程度の現地学生をマッチングすることができた。バディの中には翌年から日本の大学での交換留学を予定している者や交換留学から帰国したオーストラリア人学生も含まれ、積極的に日本人学生と交流をしたいと希望する学生が多かった。本プログラムの参加者のうち、成績基準を満たした者全てに本学より8万円の奨学金を支給した。

■担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

■実施期間 平成29年8月5日～9月10日（5週間）

■単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（8人）

■参加学生 16人

学部・研究科	学 年	人 数
農学部	1年	1
農学部	2年	1
理工学部	1年	2
理工学部	2年	1
工学系研究科	修士1年	1
経済学部	1年	2
経済学部	2年	4
経済学部	3年	1
経済学部	4年	1
医学部	3年	1
文化教育学部	4年	1

## 2.4.5 国立中興大学プログラム (台湾)

### ■概要

本プログラムは台湾の国立中興大学が協定校の学生を対象として実施するサマープログラムである。様々な国の学生が参加し、多様性に富んだプログラムである。昨年までは設定されたテーマに関して英語で講義が行われるものであったが、本年度は、午前中に中国語の授業を3時間受講し、午後に美術館や寺院、ハイキングなどのキャンパス外での活動に参加するという内容であった。例年通り、本学学生は、他国の学生の優れた積極性や主体性、また台湾人学生の高い英語コミュニケーション能力に刺激を受けていた。今年の特徴として、参加者全員が学部1年生であった点が挙げられる。これは本プログラムが、上記で述べた「スタートアップ-アジアで活躍できる人材プログラム」の一つとして位置付けているためであるが、入学して間もない学部1年生が意欲的に参加をしていることは新しい傾向である。中学・高校で海外研修に参加した経験を持つ参加者もあり、新1年生にとってはスタートアップにふさわしい経験になったのではないかと考える。本プログラムでは、国立中興大学による授業料免除及びJASSO奨学金が全参加者に提供された。

■担当教員 山田 直子 准教授 (国際交流推進センター)

■実施期間 平成29年8月7日～26日 (3週間)

■単位付与 海外交流実習 (基本教養科目) 2単位 (10人)

■参加学生 10人

学部・研究科	学 年	人 数
経済学部	1年	3
理工学部	1年	3
農学部	1年	3
教育学部	1年	1

## 2.4.6 ガジャマダ大学 DREaM プログラム (インドネシア)

### ■概要

本プログラムは本年度で2年目の派遣となった。ガジャマダ大学が毎年夏に協定校の学生を主な対象に実施しているサマープログラムである。2017年のテーマは“Resilient Society: A Trans-disciplinary and Cross-Border Approach”で、より耐性が強く変化に対して柔軟に対応できる社会やコミュニティはどのようなものかについて学際的に学んだ。ガジャマダ大学の教員に加え、海外からの招聘教員も加わり、内容の濃い講義が英語で提供される。またプログラムの最大の魅力となっているのが、提供される多様なアクティブラーニングの機会である。テーマに関連する問題を解決するためのアクションプランをグループで作成したり、村落での家内工業を支援するインターンシップやコミュニティサービス、農家での3泊4日のホームステイにも参加する。地球規模で発生している問題を解決するには言語や文化の違いを乗り越え、学際的な手法で問題を分析し、解決方法を探ることが大切であるということを、期間の短いプログラムであるが十二分に学ぶことができた。ガジャマダ大学のプログラムに加え、本年度は首都ジャカルタでの研修も行った。佐賀県人会の方が勤めておられる外資系企業への視察、現地の中学・高校訪問、日本のポップカルチャーの伝播を体感するためのJKT48劇場観覧、佐賀県人会の方々との交流など盛りだくさんの内容であった。12人中11人がJASSO奨学金を受給し、一人が本学より助成を受けた。

■担当教員 山田 直子 准教授 (国際交流推進センター)

- 実施期間 平成29年 8月9日～29日（3週間）
- 単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（10人）
- 参加学生 11人

学部・研究科	学 年	人 数
経済学部	1年	3
理工学部	1年	2
理工学部	2年	1
理工学部	3年	1
農学部	2年	3
教育学部	2年	1

#### 2.4.7 国立東華大学プログラム（台湾）

##### ■概 要

平成27年度に開始した台湾・国立東華大学への1ヶ月間の派遣プログラムに本年度は8人（H28年4人）参加し、前年度から2倍に増えた。本プログラムでは英語により専門分野や教養科目の授業を1ヵ月間履修することができる。半年や1年間の交換留学に踏み出せない学生が、1ヶ月間、交換留学と同じ経験を得られるのが特徴である。本年度はこれに加え、台中でのボランティア活動に参加した。これは台湾の複数の地域を理解する機会を得ること、また地域の人々との協働活動を通して台湾について多角的に学ぶことが目的である。本プログラムは本学の教養教育科目の単位付与があるため、授業時間数は最低週20時間というルールを定めている。さらに、バディプログラムを通して、台湾人学生に学生サークルや部活動に入ったり、近隣地域への小旅行を行ったりと、多様な活動を展開していた。本プログラムの参加者は東華大学より授業料免除を受け、さらにJASSO奨学金（6人）または本学の助成金（1人）を受給した。

- 担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）
- 実施期間 平成30年 2月24日～3月24日（1ヵ月間）
- 単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（5人）
- 参加学生 8人

学部・研究科	学 年	人 数
理工学部	1年	1
理工学部	2年	1
理工学部	3年	1
教育学部	1年	2
経済学部	1年	2
経済学部	2年	1

## 2.4.8 香港中文大学学生交流プログラム（中国）

■実施期間 平成30年2月25日～3月6日（10日間）

■参加学生 10人

■担当教員 吉川 達 講師（全学教育機構）

### ■概要

本プログラムは、本年度で6年目となる。例年通り香港での現地研修の前に4回事前研修を行った。事前研修では、香港の基礎情報の確認、自主課題の設定、スカイプによる香港中文大学生との事前交流、危機管理講習などを行った。佐賀大学生同士も学部を越える交流となった。

香港での現地研修では、主に、香港中文大学生との交流、香港中文大学の授業参加、自主課題調査、博物館等の見学、現地で活躍する日本人との意見交換などを行った。現地では、10名の佐賀大学生が10名の香港中文大学生と交流パートナーとなり、活動を行った。自主課題調査は、このパートナーの助けを借りながら進め、最終日に香港中文大学の授業で成果を発表した。

香港中文大学生との交流は、交流パートナーの学生が中心であるが、それ以外にもプログラムの参加者経験者や、授業参加時に交流した学生など多くの香港中文大学生と交流する機会があった。さまざまな活動を通して、交流パートナーはじめ、多くの香港中文大学生と親密な関係を築いた。また、高校訪問があり、現地の高校生と日本語、英語を交えて交流した。香港の高校生のエネルギッシュな態度に佐賀大学生も積極的に応えて、活発な交流となった。

香港の学生との交流だけでなく、現地で活躍する日本人との交流も行った。佐賀大学友好特使の副島善文氏の協力の下、外国人墓地を訪問し、佐賀県出身者の墓を中心に清掃活動を行った。副島氏の講義を聞きながら清掃活動を行うことで、佐賀と香港のつながりを考えるきっかけとなった。墓地清掃後は香港日本人倶楽部を訪問し、日本人倶楽部事務次長杉村氏による香港日本人墓地の歴史についての講義を受け、さらに佐賀県出身で香港で活躍されている2名の方と意見交換会を行った。佐大生は1、2年生であるため、まだ今後のキャリア形成を具体的に考えていない学生がほとんどであったが、佐賀出身の方が海外で活躍されている話を聞いて、刺激を受けている様子であった。

本派遣プログラムは、同年7月に佐賀大学で行われる受入れプログラムと一体である。香港で交流した香港中文大学生との別れを惜しみつつ7月の再会に期待して香港を離れた。

帰国後、1回の事後研修を経て、プログラムは終了となった。

■単位付与 国際交流実習（基本教養科目）2単位

性別	学部	学年
男	芸術地域デザイン学部	2
女	芸術地域デザイン学部	2
女	芸術地域デザイン学部	2
女	芸術地域デザイン学部	1
女	芸術地域デザイン学部	1
男	経済学部	1
男	経済学部	1
女	経済学部	1
女	経済学部	1
女	農学部	1



自主課題調査発表



## 2.4.9 浙江理工大学プログラム（中国）

### ■概要

浙江理工大学への派遣は今年で4度目である。平成28年度は参加者が3人のみであったが、本年度はJASSO奨学金による経済的支援が手厚くなったこともあり、12人の学生が参加した。本プログラムは、現地の交換留学生が参加する中国語授業に1ヶ月間参加させてもらう。夏に実施される中国協定校でのサマープログラムとは異なり、文化体験や視察などの様々な体験学習の機会が提供されない。そのため、本学が独自にアレンジした活動を加えている。一つは、本学で学位を取得し浙江理工大学で講師として活躍する同窓生に協力を依頼し、本学に交換留学をしていた学生や次の学期に交換留学予定の中国人学生を集めて交流会を実施した。また、現地の日本語教員に協力を依頼し、バディプログラムを実施した。本学学生1人あたり、1～2人の中国人学生が授業外の時間を活用して様々な活動を主体的に行うものである。本年の特徴として、12人中、半数の6人が農学部生となったこと、また男子学生が1人のみであった点である。中国での1ヶ月間の短期研修に参加し中国を学ぶことが、人文社会系の学生だけでなく、理系の学生にとっても魅力があり、かつ意義あるものと認識されていることがわかった。本プログラムでは、参加学生は、浙江理工大学による授業料免除と、JASSO奨学金、本学による上海宿泊費及び上海―杭州の交通費の助成を受けた。

■担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

■実施期間 平成30年3月3日～31日（1カ月間）

■単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（12人）

■参加学生 12人

学部・研究科	学 年	人 数
農学部	1年	2
農学部	2年	4
経済学部	1年	2
経済学部	2年	1
芸術地域デザイン学部	1年	1
芸術地域デザイン学部	2年	1
理工学部	2年	1

## 2.4.10 フィールドスタディ in チェンマイ（タイ）

### ■概要

本プログラムは、タイのチェンマイ大学との連携で本年度初めて実施したものである。プログラムの目的はチェンマイ及びその近郊の様々な「現場」を訪れ主体的に活動に参加し、地域の人々と意見交換をしながら、タイの社会や日本とタイとの関わりなどを学び、考え、理解することである。できるだけ多く多様な機会を学生に提供するため、プログラムの前半は佐賀大学が単独で企画・実施し、後半の1週間はチェンマイ大学により授業や学生交流、視察や文化体験を提供していただいた。前半は、佐賀県に所縁のあるNPOや日系企業を訪問した。チェンマイの障害者支援財団が運営するクラフト工房を訪れ、タイにおける障害者福祉を巡る現状や障害者が楽しく日々を過ごすための創作活動と経済活動のあり方について学習した。佐賀県内の企業と強い結びつきのある現地の日系企業への訪問では、文化や習慣の違いを乗り越えて日本人とタイ人が協働するためには、どのようなことを配慮しなければならないのか、現地で働く日本人がどのような生活を送っているのかなど多くのお話を聞くこ

とができた。さらに、タイ人夫婦が恵まれない子供を保護・養育している寮では、現金収入を得るための養殖池をつくったり、トタン屋根を設置するなどの作業を行った。後半のチェンマイ大学での活動は、タイのキャンパスライフをタイ人学生との交流を通して学ぶことができた。タイ語やタイの歴史に関する授業の受講、日本語授業への参加、ビジネスの授業を履修している学生への佐賀・佐賀大学を紹介するプレゼンテーション、タイ料理教室、寺院や市場の視察にも参加した。タイ人のバディが一人ずつ付き、現地学生の温かい人柄や積極性に助けられ、コミュニケーション能力を向上させている様子がうかがえた。参加者のうち2人を除き、全員が佐賀大学による授業料の助成を受けた。加えて11人がJASSO奨学金、2人が佐賀大学奨学金を受給した。

■担当教員 山田 直子 准教授（国際交流推進センター）

■実施期間 平成30年3月7日～21日（2週間）

■単位付与 海外交流実習（基本教養科目）2単位（9人）

■参加学生 15人

学部・研究科	学 年	人 数
教育学部	1年	1
教育学部	2年	3
文化教育学部	3年	1
文化教育学部	4年	1
医学部	1年	1
医学部	2年	1
経済学部	2年	5
理工学部	2年	2

## 2.5 学生の海外派遣支援（国際化支援制度）

### 2.5.1 平成29年度佐賀大学海外研修プログラム参加助成

#### （1）平成29年度佐賀大学短期海外研修プログラム参加助成

番号	派遣先	支援人数 (参加学生数)	期間	プログラム名	助成額
1	オーストラリア シドニー工科大学	14 (16)	平成29年8月5日～ 平成29年9月10日	シドニー工科大学プログラム	1,120,000円
2	中国・北京工業大学	1 (7)	平成29年8月6日～ 平成29年8月26日	北京工業大学プログラム	114,007円
3	韓国・釜慶大学校	2 (6)	平成29年8月6日～ 平成29年8月19日	釜慶大学校プログラム	100,000円
4	インドネシア ガジャマダ大学	1 (10)	平成29年8月9日～ 平成29年8月29日	DREaM プログラム	330,300円
5	タイ チェンマイ大学	13 (15)	平成30年3月7日～ 平成30年3月21日	フィールドスタディー in チェンマイプログラム	482,960円
6	中国 浙江理工大学	12 (12)	平成30年3月3日～ 平成30年3月31日	浙江理工大学プログラム	384,116円
7	台湾 国立東華大学	7 (8)	平成30年2月24日～ 平成30年3月24日	国立東華大学プログラム	305,000円
8	中国 香港中文大学	4 (10)	平成30年2月25日～ 平成30年3月6日	香港中文大学プログラム	230,840円
合計		54人			3,067,223円

-	台湾 国立中興大学	0 (10)	平成29年8月7日～ 平成29年8月26日	中興大学プログラム	JASSO 奨学金 6万円
-	韓国 大邱大学校	0 (10)	平成29年8月6日～ 平成29年8月26日	大邱大学校プログラム	JASSO 奨学金 7万円

## 2.5.2 平成29年度佐賀大学学生海外派遣奨励費

番号	所属	学年	指導教員	留学先	留学期間	助成額
1	文化教育学部	3	重竹 芳江	フランス オルレアン大学	9ヶ月	300,000円
2	経済学部	3	児玉 弘	中国 浙江科技学院	5ヶ月	150,000円
3	文化教育学部	3	名本 達也	フィンランド ユバスキュラ大学	5ヶ月	150,000円
4	文化教育学部	4	相野 毅	フランス オルレアン大学	4ヶ月	150,000円
5	経済学部	4	谷 晶紅	中国 北京工業大学	5ヶ月	150,000円
6	経済学部	2	山本 長次	中国 華東師範大学	10ヶ月	300,000円
7	農学部	2	野間口 眞太郎	タイ カセサート大学	5ヶ月	150,000円
8	経済学部	4	畑山 敏夫	アメリカ バシフィック大学	5ヶ月	150,000円

### 【帰国留学生の報告】

#### オルレアン大学（文化教育学部）

10ヶ月があつという間でした。やりたいことが全てできなかつたので、これからしっかり計画を立て自分が何をしたいのか、どのようにしてするのかをよく考えて留学に踏み出してほしいです。留学先での充実感に結び付くと思います。また何か問題に直面したら、相談することをお勧めします。必ず解決策が見つかるので。皆さんが素晴らしい留学生活ができることを願っています。

#### 浙江科技学院（経済学部）

よく使われる表現ですが、長かつたようでもあり、短かつたようでもある半年でした。初めての海外、授業は英語で受けるものの、中国語が全く出来ない状態での留学、短期ではなく、いきなり半年間の滞在、友達と行くわけでもない一人での留学。改めて文字に起こしてみると不安要素だらけです。行ってしまえば何とかなる、そう覚悟を決めて臨んだ留学でしたが、実際は、行ってしまえば「何とかするしかない」でした。常識や求められる行動、受け取る情報と、あらゆるものが非日常的で、新鮮で楽しく思うこともあれば、理解し難い文化に触れたり、自らの実力不足を痛感して、苛立ちを感じたり、つらい思いをすることもありました。しかし、これらを乗り越えること、変わることを強られること、何とか対応するしかないということ、こういった部分に留学の最大の価値があるのではないかと考えています。変わる必要がなければ、人間なかなか変わらないものです。一歩外に出て、変わらざるを得ない状況に自らを追いやるのもいい経験だと思います。日本人は私一人でしたが、人にも恵まれ、どうしようもなく寂しい思いをすることはありませんでしたし、もちろん、もっとこうしておけば良かったなという後悔はありますが、全体的に満足のいく半年間でした。

### ユバスキュラ大学（文化教育学部）

この留学を通して、私は知識という点と点を経験という線で結ぶことができました。インターネットが普及・発達した現代社会において、私たちは日本にいながら他の国々の情勢や文化、歴史について知ることが可能です。「日本にいても十分な知識を得られるのになぜ留学することにこだわるのか」、私は留学するまでに何度もこのことについて考えました。留学を終えたいま、私が出した答えは、「知識は経験を伴うことで実生活に生きてくる」というものです。百聞は一見に如かずということわざがありますが、いくら得た知識を頭の中で反復してもその知識からは何も生まれては来ません。しかし、ある知識が経験を伴うことで新たな発見があったり、思わぬ知識と結びついたりすることがあります。例えば、マイナス5℃と聞くとものすごく寒いように思えますが、実際は湿度や風の有無によってはあまり寒く感じられなかったりします。私にとってこの留学はまさに百聞は一見に如かずといったもので、留学するまでに得た知識が留学を通して得た経験によってさらに深めることができました。

### オルレアン大学（文化教育学部）

4ヶ月の留学期間はとても短く感じました。この長さのおかげで濃い留学生活を送ることができたと思います。渡航して1ヶ月は新生活に慣れるのに必死でしたが、オルレアン大学のサポートは充実していましたし、近くにトラム（路面電車のような交通機関）があり、買い物もすぐに行けたので、毎日の暮らしは快適でした。同じクラスや日本語学科に在籍する友達もでき、異文化の交流関係を持つことができました。加えて、ボランティアで通っていた隣の日本語教室では、小学生からお年寄りまで、幅広い年代のフランス人の方と出会いました。多くのフランス人は日本語や日本文化に興味を持っていることを知り、時には逆に教えてもらうこともあり、意外性の連続でした。留学生活の間で広がった交友関係は、これからも大切に繋げていきたいと考えています。オルレアンは比較的都会ですが、コンビニはなく日曜日はスーパーやその他全てのお店が閉まっています。初めは不便な国だと感じていましたが、早起きしてジョギングや散歩を始めて見るなど、時間の使い方を楽しむことができました。日本は時間をお金で買っているような国だと改めて実感しました。留学生活を通して変わった時間の考え方は、日本での生活でも持ち続けたいものの一つです。

### 北京工業大学（経済学部）

留学を決心できたのは締切のギリギリになってからでしたが、留学を通して語学の面だけでなく自分が慣れない環境で生きていく力を身につけることができ、精神的に大きく成長できたと感じました。また専攻の分野においても現地とのコネクションができたりととても有意義な時間になりました。留学そのものに求めるものは人によって様々だと思いますが、この交換留学を通して留学できたことはいろいろな考え方の学生と関わることのできるきっかけとなり、とても良かったと感じています。

### 華東師範大学（経済学部）

中国の大学での勉強を体験して、日本と違う形で授業を受け、大変だと思ったけど、確かに勉強にもなった。違う視野で専門知識を理解し、より身につけた。華東師範大学は中国の名門大学として、学生の能力が十分あり、授業内容と宿題が多く、難易度も高い。みんな大学院に進学するために、一生懸命頑張っている。期末テストを必死に準備しないと、不合格の結果になってしまいます。

### カセサート大学（農学部）

タイは東南アジアの中心にあり、今から発展していく国だと思います。バスにも電車にも時刻表がなく、また、授業開始の時間になっても先生がこなかったり、約束の時間になってもタイ人の友達が来ないことが殆どで、最



初は、戸惑いましたが、時間に追われない生活ができ、心に余裕がうまれました。また、タイ人は、とても家族を大切にし雰囲気の良い国でした。食事もおいしく、長期間過ごす交換留学でも食べ物に困ることは、ありませんでした。留学で私がえたものは、一番は、友達です。高い志を持つ友達に刺激を受け、寮生活で他の国の人と一緒に暮らすことで、他国の文化や言語を知ることができました。深く関わっていくうちに、価値観、宗教の違いを受け入れ、尊敬しあえるようになりました。留学=先進国というイメージを持っている人も多いと思います。しかし、発展途上国に留学することで、発展途上国からみた日本、そして、私たちがどれだけ恵まれているかに気づかされました。これからは、友達を大事にしながら、今、自分がなにをすべきかをしっかり考え、行動していきたいです。

### パシフィック大学（経済学部）

私は、アメリカの幼児教育について学びたくて留学をしました。留学先では積極的に活動をし、現地の子供たちと触れ合いながら、自分がまな板委と持っていたことを学びました。また、自分が想像していたことよりも多くの分野を学ぶことができました。例えば、大学で知り合った友達と、アメリカの人々や政治・社会について議論をしたり、街中の人々の生活から、文化や習慣、会話の特徴を学びました。こんな素敵な経験をさせてくれ、応援してくれた家族への感謝の気持ちも、今まで以上にさらに強くなりました。留学は自分の人生の財産となります。

### 2.5.3 平成29年度佐賀大学学生海外研修支援事業（申請11件中10件採択）

No.	所属	プログラム名	申請者	派遣国	研修期間	支援人数 (派遣人数)	助成額
1	工学系研究科	環アジア国際セミナー（グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用に関わる建築・都市デザインワークショップ）	三島 伸雄 教授	韓国・ オーストリア	8～22日間	10 (22)	500,000円
2	工学系研究科	STEPS メンバーによる 海外研修	Khan MD. Tawhidul Islam 准教授	インドネシア	5日間	9	450,000円
3	全学教育機構	Cultural Immersion Program at Slippery Rock University in America	早瀬 博範 教授	アメリカ	12日間	10	500,000円
4	農学部	インドネシアの農村開発と水・ゴミ問題	藤村 美穂 准教授	インドネシア	10日間	8	400,000円
5	全学教育機構	ミャンマー連邦南シャン州での NGO との連携による国際開発協力に関する研修-認定 NPO 法人地球市民の会等との連携による NGO・社会企業マインドの醸成-	五十嵐 勉 教授	ミャンマー	8日間	3	150,000円
6	工学系研究科	高電圧・電力機器に関する国際パートナー シップ教育プログラム	村松 和弘 教授	中国	6日間	2	100,000円
7	医学部	ハワイ大学臨床推論ワークショップ	小田 康友 教授	アメリカ	6日間	6	300,000円
8	全学教育機構	多文化共生社会を理解するための交換留学プログラム	江口 誠 准教授	アメリカ	8日間	10	500,000円
9	経済学部	国際交流実習～変動するアジア経済をフィールドで学び現地の人々とともに考える	サーリヤ ディ シル バ教授	スリランカ	7日間	10	500,000円
10	芸術地域デザイン学部	ハレ芸術デザイン大学・アイントホーフエン デザインアカデミーにおける芸術教育プログラム	小坂 智子 教授	ドイツ・オランダ	8日間	8 (9)	400,000円
合計						77 (87)	3,800,000円

## 【採択プログラムの成果報告】

### 1. 三島 伸雄 教授（工学系研究科）「環アジア国際セミナー・建築都市デザイン国際ワークショッププログラム」

8月10日～17日にかけて、韓国交通大学校主催の建築・都市デザインワークショップに参加した。

1月27日～2月4日にかけて、アイントホーフェン工科大学で開催された建築・都市デザインワークショップに参加した。これについては、アイントホーフェン工科大学からの支援もあったため、佐賀大学からの支援経費は使用しなかった。

3月5日～3月21日にかけて、ウィーン工科大学で開催された国際ワークショップに参加した。博士後期課程2名、前期課程8名、学部4年生7名が参加した（うち、留学生5名）。バルセロナおよびブタペストについても、ウィーン工科大学の協力を得て、視察することができた。目標を達成することができた。多様な大学との交流を実現することができ、学生の海外に対する関心を高めることもでき、プログラムの目的・目標を十二分に達成することができた。3月5日～3月21日にかけて、ウィーン工科大学で開催された国際ワークショップに参加した。バルセロナおよびブタペストについても、ウィーン工科大学の協力を得て、視察することができた。目標を達成することができた。多様な大学との交流を実現することができ、学生の海外に対する関心を高めることもでき、プログラムの目的・目標を十二分に達成することができた。今年度初めて、アイントホーフェン工科大学への渡航を実現することができた。そのことにより、ASIA-EUROPE Design Labs という名称での交流体制をつくることができた。また、今回も含めた交流の発展のために、佐賀大学都市工学科とアイントホーフェン工科大学建築プランニング学科との間で教育プログラムの学科間覚書を締結することができた。来年度のプログラムにおいては、単位数の違いに対する対応や相互交流の発展のために、サマースクールとウィンタースクールを参加大学で実施していくことが確認された。来年度については、サマースクールを佐賀大学で、ウィンタースクールをチェンマイ大学で実施することが決定した。

### 2. Khan MD. Tawhidul Islam 准教授（工学系研究科）「STEPs メンバーによる海外研修」

本プログラムの目的としては、インドネシアの技術者や学生と交流することで日本国外へと意識を向け、時代の動きに応じた世界的視野から自らの立ち位置をみる視野を養うことを目標とし、その交流等を通じ、グローバルな人材にグローバルな環境の適応があった。その関係で学生（STEPs メンバー）9名と教職員3名、合計12名でインドネシアのボゴール農科大学を訪問した。結果的に参加学生の全員でその大学の学生と交流をでき、インドネシアの文化及び技術を学んだことができた。英語で一人一人での意見交換があったので、国際課としても熱心な貢献ができた。関係の工場も訪問し、インドネシアの技術者にも交換でき、日本の技術の良さを了解できた。まとめた結果より、インドネシアの文化社会及び高い学術経験を持ちグローバル化との目標が達成したと評価する。

### 3. 早瀬 博範 教授（教育学部）「Cultural Immersion Program at Slippery Rock University in America」

事前授業、SRU、及びNYCでの研修、そして事後指導とも予定通り実施できた。今回も、以下のように長期へつながるプログラムとして、高い成果を出すことができた。以下はアンケートと聞き取り、そして学生一人ひとりに提出させた報告書を元としている。

1) SRUにおいて、各学生の専攻に関連した講義を一日2時間受講し、その中で、英語でプレゼンテーションすることを義務づけた。その分野は教育学、外国語学、政治学、アジア学、哲学、歴史学、英語学、コミュニケーション学、経済学、犯罪学などであるが、どの教科においても学生達はしっかりと講義について行き、アメリカの大学の授業をとおして、本事業の主な目的である「ミニ留学」を実感できた。多くの学生が大変満足だったおコメントしている。

2) ニューヨークでのフィールドワークでは、アメリカの歴史、政治、芸術、文化について、自由の女神、エリス島移民博物館、9・11メモリアルパーク、アメリカ自然博物館、などに関して、グループごとの英語プレゼンテーションを行わせた。各グループとも事前に詳細な調査をしており、英語による立派なプレゼンができていた。しかも現地で直に学ぶことの大切さも実感していた。

#### 4. 藤村 美穂 准教授（農学部）「インドネシアの農村開発と水・ゴミ問題」

本プログラムは、当初の計画では、バンドンにてパジャジャラン大学の協力のもと、ごみ問題について研修をする予定であったが、日程と研修費用の都合で、パレンバンにて、スリウィジャヤ大学との交流のもと、研修を行うことになった。この点については計画を全うすることができなかったが、急きょ本学部卒業生であるスリウィジャヤ大学スタッフの調整によって、計画が練りなおされ、同じテーマのもと研修計画を練り直すことができた。結果としては、大変有意義な10日間を過ごすことができた。また当プログラムの補助により、学生も教員も交流校との今後も含めた教育研究交流の継続を意識し、計画を作成し始めたこと、現地では、9月より佐賀大学農学研究科に留学予定のインドネシア人学生も一部の研修に参加するなどの効果もあった。

#### 5. 五十嵐 勉教授（全学教育機構）「ミャンマー連邦南シャン州での NGO との連携による国際開発協力に関する研修－認定 NPO 法人地球市民の会等との連携による NGO・社会企業マインドの醸成－」

本プログラムは、途上国における貧困・環境等の問題解決や緩和に関連する国際開発援助の現場での直接的な体験を通して、地域課題解決型の学習を実施する。ミャンマー連邦での研修では、佐賀に拠点を置く認定 NPO 法人地球市民の会（以下 TPA）によるミャンマー連邦南シャン州での NGO 活動のプロジェクトサイトにおいて、参加型農村開発援助の手法を学び、NGO 等への就職や社会起業のマインドを醸成させることを目的に行った。結果、NGO 活動に加えて（株）ボーダレスジャパン社による TPA と連携したミャンマーの事業（ハーブティーの生産・販売）による社会起業についても研修を行うことができた。これらを含め、地域課題解決型の NGO 活動や社会起業活動への学生の関心が高まり、それらへの就職意欲の向上につながったと評価できる。

#### 6. 村松 和弘 教授（工学系研究科）「高電圧・電力機器に関する国際パートナーシップ教育プログラム」

##### 1. UHV 送電用電力制御機器の技術を国際的に展開する能力

武漢大学の Baichao Chen 教授が「電力制御機器」、Jiaxin Yuan 教授が「鉄道の電力制御」の講義を行うとともに、武漢大学の大学院生が研究発表を行った。一方、佐賀大学の村松教授が「磁界解析技術」、高助教が「電気機器の最適設計」に関する講義を行うとともに、2名の学生が研究発表を行った。また、武漢大学の高電圧実験室、武漢製鉄所の設備会社の見学を行った。参加した2名の学生はシミュレーションが専門であり、実際の電力機器の講義や実験装置の見学は非常に参考になったと思われる。しかしながら、国際的な展開力に関しては、武漢大学の講義の中で、中国特有の課題などが説明されたが、参加学生は日本の現状を知らないため、中国と日本の技術動向に差があることが認識できなかったようである。

##### 2. 国際コミュニケーション能力

学生同士のコミュニケーションについて、当初ぎこちなかったが、毎日の昼食・夕食をともにし、また、武漢市内の観光などを通じて、最終日前日のパーティーでは十分打ち解けていたため、能力は向上したと思われる。

#### 7. 小田 康友 教授（医学部）「ハワイ大学臨床推論ワークショップ」

このプログラムでは、ハワイ大学で開催される臨床推論ワークショップに参加して臨床推論を系統的学習すること、英語環境下で講義をうけ議論をおこなうことで医学英語能力を向上させ、将来国際的に活躍できる医学生を育成すること、さらには国際的観点から日本の医学教育や医療を見つめなおし、将来我が国で必要とされる医



療について考え学習することを目的としている。

今年度8月に、医学部医学科3,4年次より2名、3月に4名が参加した。ハワイ大学、全国から集った日本人医学生との協働・競合的環境でのワークショップに参加して、米国式の実践的な学習・臨床実技を経験することができた。参加者は、いずれも臨床医学および国際的コミュニケーションにおいて多くの学習経験を獲得し、今後の自己学習に対するモチベーションが高まった。

#### 8. 江口 誠 准教授（全学教育機構）「多文化共生社会を理解するための交換留学プログラム」

事前に設定した「長期留学への明確なイメージを持たせる」という点に関しては、概ね達成出来た。今後実際に長期で留学するかどうかはまた別の問題として、スリッパリーロック大学で自分の専攻に関する授業に参加することで、アメリカの大学で授業を受けるためになすべき事を具体的にイメージ出来たのではないと思われる。

また、「アメリカの生活や文化に対する理解を深める」という点に関しては、フィールドワークの実施場所を今年度からワシントンD.C.に設定した。議事堂やスミソニアン博物館でアメリカの歴史や文化を学習することにより、日米の文化の相違点及び類似点を学ぶことが出来たと思われる。それに先立ち、スリッパリーロック大学での研修の最終日の夕方に開催されたClosing Celebrationでは、この研修で得られた成果を一人あたり3分間英語でプレゼンテーションし、ホームステイや授業体験で得られた経験を関係者に披露する機会があった。ここでは、各学生の視点からアメリカ文化の様相が語られ、学生の理解が深まったことが分かった。

最後に、「長期留学に必要な高度のアカデミックな英語表記能力を習得させる」という点に関して、例年そうであるが、参加学生は3月末に帰国することになっており、残念ながら研修後にTOEFL ITPを受験する機会がなかったため、その成果を測ることは出来ない。しかしながら、研修開始直後と終了時の参加学生の英語力、特にスピーキング力については、全ての学生が飛躍的に向上しており、この点に関しては、ESL担当教員やコーディネーターの教員も同様の認識であったことを挙げておきたい。

#### 9. サーリヤ ディ シルバ 教授（経済学部）「国際交流実習～変動するアジア経済をフィールドで学び現地の人々とともに考える」

今回の研修課題を「グローバル化における中小企業の役割」とし、事前研修では佐賀県や県内中小企業、海外実習ではカセサート大学の協力のもと、講義や調査の機会を与え、英語で具体的事例を比較的に考察させることで、学生は国際社会で出現している様々な事象について多面的に捉える機会を得、英語による発表等を通して表現能力の向上を身につけることができた。また、学生が学問的な成果を獲得するだけでなく、訪問国の文化や言語、習慣、宗教、民族を理解する「相互理解」を基本とする国際交流の発展に貢献できるような人材に成長できる意識づけができた。帰国後は、市民を対象にタイで学んだことを報告する。これらの一連の内容が、その後、交換留学や海外の大学院進学、さらには国際関係の職場に就くという進路進学の国際活動への動機づけという点で有意義な成果を挙げている。

#### 10. 小坂 智子 教授（芸術地域デザイン学部）「ハレ芸術デザイン大学・アイントホーフェンデザインアカデミーにおける芸術教育プログラム」

芸術やデザインの領域においては確実に堅実なドイツの気風と、新しい表現の為には自由に横断することができるオランダ特有の垣根のない気風が感じられ、両国の違いを実感した今回の研修で、学生らは今後の自分自身の留学の可能性や方向性について考えることができ、多くの情報が得られた。

ハレ芸術デザイン大学は、佐賀大学と大学間協定を締結したことにより、今後は佐賀大学学生が留学する際、有田セラミックだけではなく、様々なコースの学生が留学する可能性が出てくる。この件について学長のホフマン氏と会談したことは大きな実績である。会談の中でこの件について触れ、担当部署で適切に話し合っている



ことが確認できた。また、将来の可能性について、今後の教員間の1～3ヶ月程度の交換教育についての提案も行い、それについては、可能性はあり興味深いのが、相互の英語能力の強化と共に原資について今後検討する必要があることが確認できた。ホフマン氏より、ハレ大学からの留学生の送り出しについて、日本は教育レベルが高く、また歴史文化的な大きな違いにより非常に大きな影響を受け、学習において大きな成果がある報告を受けた。また学生らの行ったワークショップはハレ大学の学生らに、交換留学に興味をもたせることができた効果的なワークショップとなった。

DAEについては新しく始まったばかりの交流であるため、丁寧にみていく必要があると考えていた。佐賀大学や短期留学プログラム“SPACE-ARITA”についてのプレゼンテーション、そして学生らのワークショップには多くの学生が興味を持ち、交換留学への質問が多々あった。ハレ芸術大学同様、DAEの学生らに、交換留学に興味を持たせることができた効果的なワークショップとなった。

“SPACE-ARITA”についての説明とその後の有田ワークショップでは18名の参加者のうち、7名もの参加者が交換留学に興味を持っていると氏名を記してくれた。この様に適切な紹介を行うと興味を抱く学生たちが沢山いるが、残念なことに積極的にその短期留学プログラムについて発信されていないのが現状である。そのためこの交流が定着するこの数年間は、DAEとの交流については、佐賀大学側からの積極的なアプローチと発信が重要であるということがわかった。

### 3. キャンパスの国際化

キャンパスにおける多文化共生、とりわけ留学生と日本人学生の互恵的な関係を創出することを目指して、国際交流推進センターでは多様な活動を展開している。平成25年より異文化への理解と高いコミュニケーションスキルを備えた学生を「佐賀大学グローバルリーダーズ」として採用し、国際交流推進センター・国際課とが協働しキャンパスの多文化共生につながる取り組みを行なっている。メンバーには留学生も半数含まれ、留学生が常に「支援される側」として位置付けられるのではなく、キャンパス・コミュニティの構成員としてより良い環境をつくるために活躍・貢献してもらうことを意図している。

グローバルリーダーズの主たる活動の一つがランゲージ・ラウンジである。お昼休みの1時間に日本人学生と留学生が集い、昼食を取りながら外国語や外国文化についての会話を楽しむものである。学生主体で行うものであり、ファシリテーター役が学生であるため、肩肘を張らず参加できる。平成29年度は中国語、韓国語、英語の他に、インドネシア語を新たに加え4言語を実施した。短期海外研修プログラム(SUSAP)に参加する学生には、留学準備の一環として任意で参加をしてもらっている。留学予定の国や文化、言語についてその国の出身学生と一緒に会話をすることが楽しいと感じられる学生は、毎週続けて参加している。

例年、年末に開催しているカルチュラルナイトの規模が年々拡大しており、気軽に異文化に触れることのできる機会となってきた。そのほか、新入留学生を対象とした異文化適応ワークショップでは、グループディスカッションのファシリテーターをグローバルリーダーズが行い、活発なディスカッションを促すだけでなく、先輩学生として問題解決や留学生活の楽しみ方などをアドバイスしている。今年度は上記のほか、留学生フェアウェルパーティの開催、スポーツイベント、オープンキャンパスでの高校生向けランゲージ・ラウンジ、留学希望者や留学生の悩み相談に対応するピアサポーター活動などを実施した。



グローバルリーダーズのメンバー



英語ランゲージラウンジ



インドネシア語ランゲージラウンジ



カルチュラルナイトのファッションショー

## Ⅲ. 研究者交流

国際交流推進センターにおける「国際研究者交流事業」は個人を対象とした派遣ではあるが、その先に大学間の学術研究交流へと発展することへ望みを託す事業と言える。研究の世界はネットワークの拡充によりグローバル化が進み、地理的な意味での地方の大学の研究環境は昔に比べると改善されたのかもしれない。多少の不便さに目をつぶれば、海外との研究打ち合わせもインターネット経由で簡単に行うことができる。しかしながら、最先端の情報、技術や革新的な方法などは多くの場合、面と向かった何気ない議論から出発したり、実験分野では一緒に作業をしてみないとわからないことも多々ある。この支援事業をきっかけに実績を積み、更なる外部資金獲得、さらに大きな枠組みでの研究体制の構築につなげることで、佐賀大学の学術研究を発展させることが期待される。

### 1. 国際研究集会開催支援事業

平成29年度佐賀大学国際研究集会開催支援事業（申請2件中1件採択）

	氏名・所属	開催地	研究集会名	開催期間	参加者数	支援金額
1	児玉 弘 准教授 経済学部	佐賀大学	第3回日台法学研究シンポジウム	平成29年11月22日 ～11月26日	約150人	750,000円
					合計	750,000円

#### 【採択プログラムの成果】（教員からの報告を基に作成）

児玉 弘 准教授（経済学部）「第3回日台法学研究シンポジウム」

佐賀大学が中心となり運営している日台法学研究シンポジウムの定期的な開催により、特に台湾においてこのシンポジウムの知名度が高まり、参加希望者が増えている。特に、今回のシンポジウムには、邱駿彦氏（台湾労働法学会元理事長）、王能君氏（台湾労働法学会元理事長、国立台湾大学法律学院副教授）といった、台湾で著名な研究者の参加が得られ、このシンポジウムが台湾においてさらに広く周知されるものと思われる。

参加者へのアンケート調査では、「本シンポジウムにつき、満足されましたか」との質問に対し、回答者93人中83人が「満足」と回答、「今後このようなシンポジウムに参加したいと思いますか」との質問に対し、93人中85人が「参加したい」と回答した。回答者が主に学生であることから、普段の大学の授業で学んだ基礎的な知識が実社会でどのように関連しているのかを国際的に把握できたことの意義は大きかったのであろう。

### 2. 研究者海外派遣支援事業

1. 平成29年度佐賀大学研究者海外派遣事業（申請5件中5件採択）

	氏名・所属	国名	海外派遣機関名	派遣機関	支援金額
1	竹下 道範 教授 工学系研究科	フランス	リール第1大学	平成29年9月8日 ～9月25日	504,000円
2	永野 幸生 准教授 総合分析実験センター	ミャンマー	ミッチーナ大学 マンダレー大学	平成29年12月23日 ～平成30年1月8日	760,000円
3	高橋 智 准教授 工学系研究科	フィンランド	ヘルシンキ大学 ユバスキュラ大学	平成29年10月17日 ～11月3日	432,000円
4	森田佐知子 准教授 キャリアセンター	デンマーク フィンランド エストニア	コペンハーゲン大学 ヘルシンキ大学 タリン大学、タリン工科大学	平成29年9月8日 ～9月29日	780,000円

5	山津 幸司 准教授 教育学部	アメリカ 合衆国	ケント州立大学	平成29年9月5日 ～9月18日	710,000円
				合計	3,186,000円

### 【採択プログラムの成果報告】（教員からの報告を基に作成）

#### 1. 竹下 道範 教授（工学系研究科）「水素結合性超分子の光スイッチに関する研究」

本派遣で、3報の論文の共同出版に目途が立ち、共同で実験を行うことによって、評価において何が問題であったかが明確となった。また、ANR（フランス側）および科研費（佐賀大学側）への申請を共同で行うことで、5年にわたり数千万円の規模の予算獲得を目指している。一方、リール第1大学の国際課に直接お願いしたところ、「トビタテ」の留学を希望している学生の受入書を即時に出していただくことが可能となった。また、リール第1大学の大学院生に対し講義を行い、関連分野の講義と佐賀大学の紹介を行った。共同研究先の研究者の紹介で、10月に来日するリール第1大学の名誉教授と懇意になり、佐賀大学にて講演していただくことが可能となった。これらの成果は、私が直接リール第1大学に出向いたから成しえたことであり、本海外派遣事業に採択していただいたためである。

#### 2. 永野 幸生 准教授（総合分析実験センター）「ミャンマーにおけるカンキツの探索と現地研究機関でのDNA分析」

当初の目的・目標である「ミャンマーにおけるカンキツの探索」および「現地研究機関でのDNA分析」を実施することが出来た。また、ミャンマー北部のカチン州はカンキツ遺伝資源が豊富であるという予測の元に本訪問を行ったが、実際に圧倒的に遺伝資源が豊富であることが判明した。

また、植物の分類にはDNA分析が必須であるが、様々な法的制約から植物を日本に持ち帰り分析するのが難しいため、現地研究機関でのDNA分析が必要となる。ミャンマーは後発開発途上国であり、研究インフラが整っていないため、現地での本格的なDNA分析に挑戦することも大きな課題であった。私たちは日本から試薬と機器を持ち込み、各種DNA分析（DNA抽出・DNA増幅・電気泳動法によるDNA分析等）が実施可能であることを実証した。なお、DNA分析は現地研究機関（マンダレー大学）の学生と共に行った。座学中心で先端的な実験を行う機会のない学生には良い刺激になったはずである。

ミッチーナ大学、マンダレー大学の研究者と交流を深め、彼らと共同研究を円滑に行う体制を構築できたことも大きな成果である。

#### 3. 高橋 智 准教授（工学系研究科）「インフレーション宇宙の検証、および、そのメカニズムの解明へ向けた理論的研究」

今回の海外派遣事業では、複数場インフレーションモデルに関する共同研究について議論し、そして推進することが目的であった。滞在期間中に当該モデルの宇宙観測における検証可能性などについて議論し、今後の共同研究の方針が定まり、さらには、滞在中に（部分的に）数値解析も行うことが出来たため、その結果に関してもすぐに議論することができ、共同研究が大幅に進んだ。さらには、他の共同研究の課題についても議論をすることができたため、今後のさらなる共同研究の発展が期待できると考えている。よって、今回の派遣事業は非常に有意義で、大きな成果が得られたと考える。

今回の海外派遣事業では、主に複数場インフレーションモデルにおいて (i)宇宙初期にインフレーションが2度起こる場合の宇宙観測における検証可能性 (ii)非常に幅広いスケールの宇宙観測における複数場インフレーションモデルの予言、の2つについて集中的に議論を行った。

(i)については、2度インフレーションが起こる場合、小スケールの観測に影響を及ぼすことを議論し、特に「冷



たい暗黒物質」による宇宙の構造形成で問題となっている所謂「小スケール問題」に対して、このようなインフレーションモデルが解決を与える可能性について知見が得られた。

(ii)については、複数場インフレーションモデルにおいて、宇宙初期のインフレーションを引き起こすインフラトン場以外の所謂スペクテーター場が宇宙の暗黒物質を説明できるようなモデルまで含めて、より一般的な解析ができることが今回の議論で明らかになった。

以上のように、今回の海外派遣事業で、共同研究に関して、滞在中に幾つかの結果を得ており、さらに、今後の具体的な共同研究の方針が非常に明確になった。また、今回の研究を発展させた共同研究の議論まで行うことができ、非常に多くの成果を得ることができた。

#### 4. 森田 佐知子 准教授 (キャリアセンター)「地域コミュニティにおける若年者メンタリングプログラムの開発－エフタスコレにおける生徒と教師との関わりに着目して－」

比較研究で訪問したエストニアにおける若者のキャリア発達支援をまとめた英語論文が査読付きジャーナル(大学教育研究)に掲載が決定した。(タイトル: The Issue of Career development support in Estonian Higher Education、現在修正中のため変更の可能性有) また、デンマーク、フィンランド、エストニアを代表する大学のキャリアセンターの専門家とのコネクションを構築し、今後の共同研究等への糸口を掴むことができた。さらに、エフタスコレに関する研究を継続できたことで、エフタスコレ協会とも深い信頼関係を構築することができ、エフタスコレについて記載した論文(佐賀大学全学教育機構第5号掲載論文)を、エフタスコレ協会のウェブサイトでも紹介していただくことができた。また大学生の短期訪問、短期留学についても、前向きな検討をいただいている。

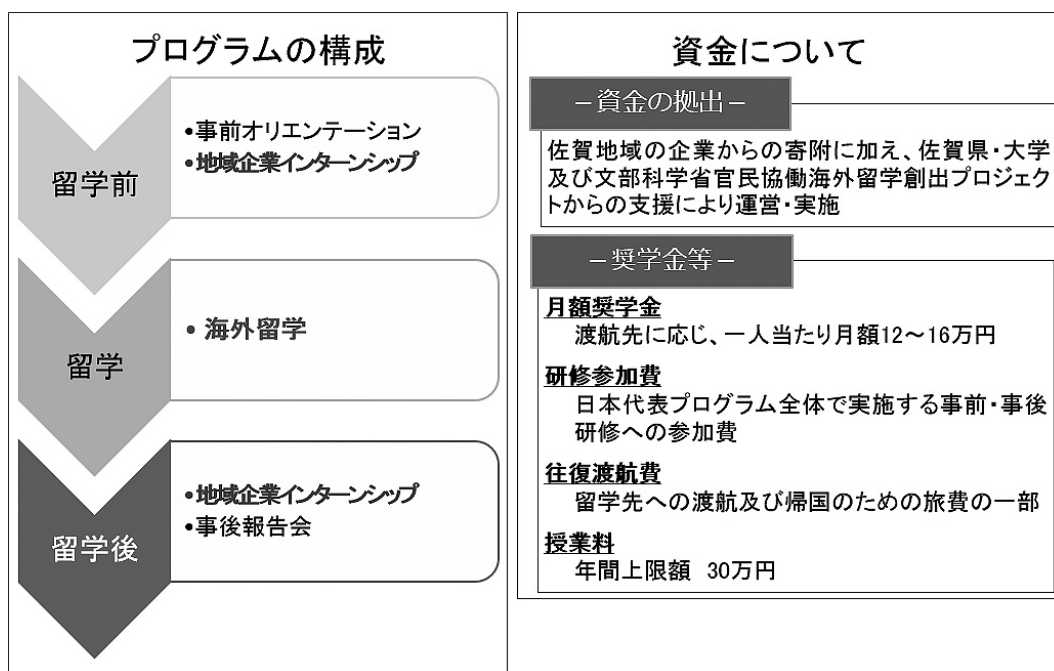
#### 5. 山津 幸司 准教授 (教育学部)「生きる力と学力の向上に貢献する保健体育科教員養成手法に関する理論的かつ実践的研究拠点の構築」

受入教員の Takahiro Sato 准教授とは、まずは保健体育教員養成手法の日米比較からはじめ、最終的には日本における保健体育教員養成のあり方や養成効果を高めるカリキュラムなどを明かにすることを国際共同研究の目的とし、今年度の文科省科研費への応募につなげるという研究計画が具体化したことが最大の成果である。また、Kent State University の別学部の Jacob E. Barkley 准教授とは、携帯電話の利用と学業成績の関連性の検討に関する日米比較の国際共同研究を行うことを合意できた。申請者の研究対象は座位行動であり、携帯電話利用は座位行動の中でも特に学業成績を低下させる要因と考えられている。Jacob E. Barkley 准教授の研究成果は Japan Times などマスコミでも注目されており、本日米比較研究では興味深い研究知見を発信できる可能性がある。

## IV. 地域国際連携

### 1. 世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業

本事業は、「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）」の実施母体である「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」（会長：宮崎耕治 佐賀大学学長）が平成28年度より実施している、海外留学と県内企業でのインターンシップを組み合わせた海外留学支援事業である。



プログラムの構成及び資金について

二年度目となる今年度は本学学生から8件の応募があり、書面審査に続き、支援企業等による面接審査の結果6名が採用され、オランダ、フランスなど計5か国へと飛び立つことができた。また、留学前後の県内企業でのインターンシップには、株式会社ミゾタ、一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター、株式会社オプティム、株式会社JTB九州佐賀支店、特定非営利活動法人地球市民の会、そよ風館（道の駅大和）の協力を得ることができた。

#### 1.1 事前オリエンテーション

【日 時】2017年7月8日（土）9時30分から17時

【場 所】佐賀大学 本庄キャンパス 学生センター会議室

【参加者】地域人材コース第7期生 8名

【内 容】第一部 佐賀県政の概要・佐賀県の国際戦略について（佐賀県庁）

第二部 佐賀県の産業構造について（佐賀県庁）

第三部 企業インターンシップ事前研修

第四部 個別リスクマネジメント

2017年度（第7期）派遣留学生として、佐賀大学生6名、佐賀女子短期大学生1名、西九州大学生1名が参加した。学生たちは今回の事前オリエンテーションに参加したことにより、多くの情報・知識を得たと同時に、仲間との交流を深める一日となった。



事前オリエンテーションの様子

## 1.2 派遣留学生壮行会

【日 時】2017年7月25日（火）13時30分から15時30分

【場 所】佐賀商工ビル 7階大会議室

【内 容】派遣留学生7名が留学計画の説明を交えながら決意表明を行った。昨年留学した先輩学生の激励をこめた留学報告に耳を傾け、海外留学及び国内でのインターンシップに向けて決意を新たにした。交流会では出席者と派遣学生との意見交換が行われ、派遣留学生は多くの支援企業様と交流した。

## 1.3 成果報告会

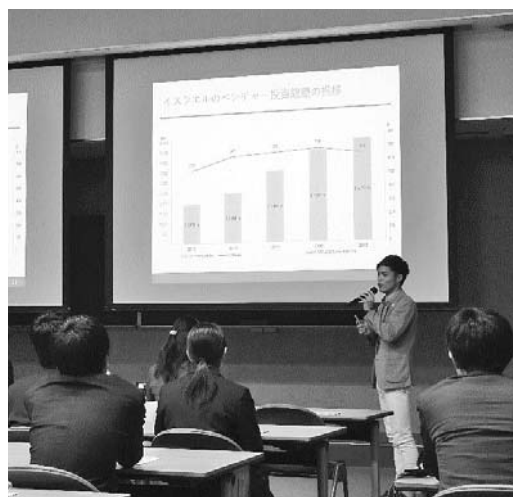
【日 時】2018年3月19日（月）13時30分から16時

【場 所】佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室

（交流会 1階コミュニケーションホール）

【内 容】学生からの成果発表に加え、インターンシップ受入れ先企業・団体2社に報告していただいた。本年度の受入れ先である株式会社ワイビーエム様からは、自社の紹介の後にインターンシップ内容を話していただいた。同じく本年度受入れ先である地球市民の会様より事前インターンシップと事後インターンシップ内容を詳細に報告していただいた。

報告会終了後には、企業と学生との交流会を実施した。留学を検討している学生も多く参加しており、派遣留学生や文部科学省の担当者、企業の方たちと積極的に交流を図っていた。



第2期生 山口 拓馬さん



地球市民の会 神崎様





記念撮影

#### 1.4 佐賀県副知事表敬

【日 時】2018年3月20日（火）16時30分から16時55分

【場 所】新行政棟4階 会議室

【訪問者】第2期派遣生 須山 敬大・山口 拓馬・平川 眞実・川崎 美代子  
事務局より 新美 達也地域コーディネーター、執行事務補佐員

【内 容】まず、新美地域コーディネーターから、佐賀県からのご支援に対しお礼と、次年度のご協力をお願いした。成果報告では須山さん、山口さん、平川さん、川崎さんの順に自己紹介を兼ねた報告を行い、副知事からの質問に各自が感じたこと学んだことを交えながら答え、今後の佐賀県地域に貢献していきたいと話した。最後に、副知事より「この経験を活かし、ぜひ志を高く頑張してほしい」との言葉を頂き、学生たちも気持ちを新たにしていた。



## 2. 佐賀県立武雄高校との交流

### ●佐賀県立武雄高校との交流

平成27年度より、佐賀大学留学生と佐賀県立武雄高校の交流を開始した。平成29年度は以下の交流Ⅰ～Ⅱを行った。SPACE-Eについては、留学生の増加に伴い交流授業の実施が難しくなったことから、交流授業を行わなかつ



た。2回の交流の参加者や内容の詳細は以下の表のとおりである。いずれの交流も、留学生にとっては①日本事情を知る（学校生活や部活、武雄市の名所）、②日本人高校生と交流する、という経験を得るまたとない機会となったと考えられる。武雄高校の生徒にとっても同様であろう。これらの交流は、今後も、継続して行っていく方針である。

項目	交流 I	交流 II
授業科目／プログラム	SPACE-J・日研生のための科目「日本事情研修D」	香港中文大学サマープログラム
授業担当者	中山・布尾	吉川・山田
場所	武雄高校	武雄高校
実施日	平成29年7月8日（土）	平成29年7月11日（火）
参加留学生	31名	8名
内容	スポーツと余暇をテーマとして日本事情について学ぶ授業の一環として訪問。 内容： ①ゲーム・自己紹介・交流 ②部活動見学 ③武雄市内見学	香港中文大学からの短期受入れの留学生が参加。 内容： ①英語授業での英語による学生交流 ②部活動見学



交流 I 写真



交流 II 写真

## V. その他住環境整備等

### 1. 佐賀大学国際交流会館

佐賀大学では国際交流の促進に寄与するため、外国人留学生および外国人研究者の居住施設として「佐賀大学国際交流会館」（以下、会館）を有している。

会館は単身者用宿舎としてのA棟、夫婦・家族用宿舎としてのB棟、家族者用宿舎としてのC棟がある。A棟の竣工はそれぞれ平成2年である。C棟については、職員宿舎のひとつであった職員西宿舎（昭和45年竣工）を転用し平成28年10月から留学生用宿舎として運用している。

各棟の居室数はA棟42室、B棟11室、C棟20室となっている。A棟には共用施設として1階にラウンジ、図書・研修室、2階に会議・研修室、和室、3階に談話室を設けていて居住者同士や留学生と日本人学生との交流、学内外の交流団体等との交流の場として提供している。

A B棟の各居室には生活上の設備として各居室にユニットバス、トイレを設置し、ベッド、ロッカー、エアコン、冷蔵庫、ガスコンロ等の様々な備品類を備え、居住者が快適に生活できるよう支援している。また、インターネット接続サービスを学外業者と提携して使用できるようにしている。

管理面では、会館に館長及び主事を置き、前者は国際交流推進センター長が、後者は国際課長が務め、会館の管理運営に当たっている。

会館には、一部居室を日本人学生（大学院生又は3、4年次学部学生）4人に提供し混住させている。彼らは留学生のチューターとして生活上の相談相手やルールの助言を担っている。

会館入居者の防災意識を高めるため、年1回消防訓練を地元消防署の指導の下に実施している。この防災訓練では実際に火災が発生したことを想定し入居者全員による避難訓練を行うほか、実際に消火器を使った消火訓練も体験させ、非常事態発生時に即時対応できる心構えを体得させている。

平成28年の旧職員西宿舎の留学生宿舎転用により、留学生の住環境は格段に向上したものの、一方で竣工から45年以上を経過し、経年劣化による管理維持が深刻な問題となっている。毎年、漏水等の小規模な緊急修繕を重ねているが、留学生が安心快適に居住することで学業に専念できるよう、大学として計画的な修理・修繕計画が求められるところである。

### 2. その他の住環境支援

上記会館の入居者以外の留学生は、大学周辺の民間アパート等に入居することとなる。

このうち、交換留学生及び日本語・日本文化研修留学生に対しては、アパート等9物件の情報を提供し、住環境を支援している。

また、その他の支援として、留学生が貸主とアパート賃貸借契約を締結する際、連帯保証人が見つからない場合には、（公財）日本国際教育支援協会が実施している「留学生住宅総合補償」（以下、保険）への加入を条件に、国際交流センター長名で連帯保証人となる機関補償制度を平成12年から実施している。

なお、留学生が本学を途中離籍した場合、保険は補償外となる一方で、貸主と締結した契約書は離籍後も連帯保証は継続するため、離籍した留学生の家賃滞納や原状回復の責が本学に及ぶことから、センター長名の連帯保証期間を留学生の在籍時のみとする保証書を定め平成29年度より実施している。

## ・国際交流会館の入居率

	区分	居室数	寄宿料 (共益費含む) (円)	平成28年度 入居率(%)	平成29年度 入居率(%)
留学生用	单身	40	8,100	85.83	100
	夫婦	3	12,200	100	0.00
	家族	4	14,900	79.17	79.17
	家族 (旧:西宿舎)	20	13,400	95.00	97.50
研究者用	单身	2	15,000	85.83	50.00
	夫婦	2	24,000	100	54.20
	家族	2	33,000	79.17	75.00

家族室については、2人シェア又は3人シェアを可能としている。

## 資料1：学長・理事表敬訪問及び学術交流

○5月15日 ブルゴーニュ大学（フランス）理事表敬訪問

大学院生交流に関する意見交換のため、Sami Ferdjani（ESIREM：Engineering school of research in Materials and Infotronique 国際関係担当）が訪問。

○11月6日 10月24日 ヴァルドワーズ県（フランス）代表団 学長表敬訪問

バイオ産業大学（フランス）との学術交流協定調印式のため、Ms. Florence DUFOUR（バイオ産業大学長）ほか9名が訪問。



2月22日 浙江大学（中国）理事表敬訪問

学生交流に関する意見交換のため、Prof.Tang Xiaowu（国際教育学院副院長）ほか3名が訪問。





## 資料2：国際交流推進センター事業関連の海外出張・訪問

期間	行先（国）	訪問先	用件	出張者名
平成29年4月1日 ～4月2日	韓国	大邱大学校 他	SUSAP 大邱大学校プログラム参加学生 の引率	山田 直子 准教授
平成29年7月31日 ～8月4日	タイ	チェンマイ大学、 カセサート大学、 タマサート大学	SUSAP 新規プログラム開発	山田 直子 准教授
平成29年8月6日 ～8月9日	中国	北京工業大学	SUSAP 北京工業大学プログラム参加 学生引率及び 海外版ホームカミングデーの下見	成瀬 雅也 国際課長 出雲 大輔 主任
平成29年8月6日 ～8月10日	台湾	国立中興大学、 文藻外語大学	SUSAP 中興大学プログラム参加学生 の引率	山田佳奈美 コーディネーター
平成29年8月9日 ～8月17日	インドネシア	ガジャマダ大学、 マラン国立大学 他、 ジャカルタ市内企業、 高校訪問等	SUSAP ガジャマダ大学 DREaM プロ グラム引率等	山田 直子 准教授
平成29年10月22日 ～10月28日	フランス	ブルゴーニュ大学、 バイオ産業大学 他	学生派遣・受入に関する協議等	山田 直子 准教授
平成29年12月6日 ～12月10日	中国	遼寧師範大学、 北京工業大学 他	佐賀大学海外版ホームカミングデー in 北京2017	寺本 憲功 理事(センター長) 市山 郁生 学術研究協力部長 成瀬 雅也 国際課長 山田佳奈美 コーディネーター 出雲 大輔 主任
平成30年2月4日 ～2月8日	アメリカ	パシフィック大学、 オレゴン大学	学生交流に関わる意見交換等	山田 直子 准教授
平成30年2月24日 ～2月28日	台湾	東華大学	SUSAP 東華大学プログラム参加学生 の引率	山田 直子 准教授 牛嶋友紀子 主任
平成30年2月25日 ～3月6日	中国・香港	香港中文大学	SUSAP 香港中文大学交流プログラム 参加学生の引率	吉川 達 講師
平成30年3月3日 ～3月7日	中国・上海	浙江理工大学、 温州大学	SUSAP 浙江理工大学プログラム参加 学生の引率 他	成瀬 雅也 国際課長 山田佳奈美 コーディネーター
平成30年3月7日 ～3月18日	タイ	チェンマイ大学	SUSAP チェンマイ大学プログラム参 加学生の引率	山田 直子 准教授 永安 樹 事務補佐員
平成30年3月28日 ～3月31日	中国・上海	華東師範大学	SUSAP プログラム担当者との協議、 参加学生の引率等	山田 直子 准教授 玉ノ井博紀 主任

資料3：平成29年度 留学生数

学部等 Faculties	合計 Total	学部 Undergraduates														大学院 Graduate Schools							
		教育学部 Education		芸術地域 デザイン学部 Art and Regional Design		文化教育学部 Culture and Education		経済学部 Economics		医学部 Medicine		理工学部 Science and Engineering		農学部 Agriculture		修士課程 Master's Course							
		国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	教育学研究科 Education		経済学研究科 Economics		地域デザイン 研究科 Regional Design in Art and Economics	
																		国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense
国・地域 Country-Region																							
計 Total	224	0		0		0		16		0		20		1		37	0		0		17		
		0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	20	0	1		0	0	0	1	2	15	
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	1															0							
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	26															0							
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	6															0					1		
タイ王国 Kingdom of Thailand	19															0						2	
マレーシア Malaysia	15												14		14								
インドネシア共和国 Republic of Indonesia	11													1	1						1	1	
大韓民国 Republic of Korea	17													1	1	2						1	
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic	3															0							
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	15								3							3						1	
中華人民共和国 People's Republic of China	74								13					3	16					1		10	
カンボジア王国 Kingdom of Cambodia	3															0							
台湾 Taiwan	8															0							
ナイジェリア連邦共和国 Federal Republic of Nigeria	1															0							
エジプト・アラブ共和国 Arab Republic of Egypt	3															0							
チュニジア共和国 Republic of Tunisia	1															0							
モロッコ王国 Kingdom of Morocco	1															0							
セネガル共和国 Republic of Senegal	1															0							
アメリカ合衆国 United States of America	1															0							
フランス共和国 French Republic	1															0							
オーストラリア Commonwealth of Australia	2															0							
パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan	1															0							
モザンビーク共和国 Republic of Mozambique	2															0							
ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myanmar	5															0							
フィンランド共和国 Republic of Finland	1															0							
オランダ王国 Kingdom of the Netherlands	1															0							
ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germany	1													1	1								
サントメ・プリンシペ民主共和国 Democratic Republic of Sao Tome and Principe Sao	1															0							
リトアニア共和国 Republic of Lithuania	2															0							
南スーダン共和国 Republic of South Sudan	1															0							

(平29. 5. 1 現在) As of May 1, 2017

国・地域 Country-Region	学部等 Faculties		大学院 Graduate Schools										大学院計 Total		国費・私費計 Total							
	修士課程 Master's Course		博士前期課程 Master's Course		修士課程 Master's Course		博士課程 Doctoral Course		博士後期課程 Doctoral Course		大学院計 Total		国費・私費計 Total									
	医学系研究科 Medicine		工学系研究科 Science and Engineering		農学研究科 Agriculture		医学系研究科 Medicine		工学系研究科 Science and Engineering		大学院計 Total		国費・私費計 Total									
	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense								
計 Total	1		30		7		6		41		103		70		13		84		42		182	
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal				1							1						0	0	1			
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh			3				1		11	2	17	1	1	4	3		9	20	6			
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka										1	2		2	1	1		4	2	4			
タイ王国 Kingdom of Thailand				6					7	1	16		3				3	7	12			
マレーシア Malaysia				1							1						0	0	15			
インドネシア共和国 Republic of Indonesia			2								5		5				5	3	8			
大韓民国 Republic of Korea				3							4		11				11	0	17			
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic											0		2		1	3	1	2				
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam						1		1			3		6		3		9	1	14			
中華人民共和国 People's Republic of China		1		5		2	1	3		13	36		22				22	1	73			
カンボジア王国 Kingdom of Cambodia									1		1		2				2	1	2			
台湾 Taiwan						2					2		6				6	0	8			
ナイジェリア連邦共和国 Federal Republic of Nigeria				1							1						0	0	1			
エジプト・アラブ共和国 Arab Republic of Egypt				1				1			2		1				1	1	2			
チュニジア共和国 Republic of Tunisia											0	1					1	1	0			
モロッコ王国 Kingdom of Morocco				1							1						0	0	1			
セネガル共和国 Republic of Senegal			1								1						0	1	0			
アメリカ合衆国 United States of America											0		1				1	0	1			
フランス共和国 French Republic											0		1				1	0	1			
オーストラリア Commonwealth of Australia											0		2				2	0	2			
バキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan										1	1						0	0	1			
モザンビーク共和国 Republic of Mozambique						2					2						0	0	2			
ミャンマー連邦共和国 Republic of the Union of Myammer			1	2						2	5						0	3	2			
フィンランド共和国 Republic of Finland											0		1				1	0	1			
オランダ王国 Kingdom of the Netherlands											0		1				1	0	1			
ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germany											0						0	0	1			
サントメ・プリシペ民主共和国 Democratic Republic of Sao Tome and Principe Sao				1							1						0	0	1			
リトアニア共和国 Republic of Lithuania											0		2				2	0	2			
南スーダン共和国 Republic of South Sudan				1							1						0	0	1			

## 資料4：学術交流

(平29. 4. 1現在)

国名 Country	学術交流協定大学等 Partner Universities and Institutes	協定締結年月日 Since	
大学間 University		計88校	
大韓民国 Republic of Korea	全南大学校 Chonnam National University	平3. 3. 8 Mar. 8, 1991	
	安東大学校 Andong National University	平9. 12. 11 Dec. 11, 1997	
	国民大学校 Kookmin University	平11. 3. 29 Mar. 29, 1999	
	釜山大学校 Pusan National University	平12. 2. 2 Feb. 2, 2000	
	木浦大学校 Mokpo National University	平12. 8. 3 Aug. 3, 2000	
	釜慶大学校 Pukyong National University	平14. 4. 18 Apr. 18, 2002	
	济州大学校 Cheju National University	平14. 8. 9 Aug. 9, 2002	
	韓国技術教育大学 Korea University of Technology and Education	平14. 10. 8 Oct. 8, 2002	
	光州女子大学校 Kwangju Women's University	平17. 7. 14 Jul. 14, 2005	
	培材大学校 Pai Chai University	平18. 7. 11 Jul. 11, 2006	
	牧園大学校 Mokwon University	平19. 5. 16 May. 16, 2007	
	大邱大学校 Daegu University	平19. 6. 26 Jun. 26, 2007	
	中華人民共和國 People's Republic of China	華東師範大学 East China Normal University	平10. 5. 15 May. 15, 1998
		北京工業大学 Beijing University of Technology	平10. 12. 8 Dec. 8, 1998
首都師範大学 Capital Normal University		平11. 4. 12 Apr. 12, 1999	
中国農業大学 China Agricultural University		平12. 10. 17 Oct. 17, 2000	
遼寧師範大学 Liaoning Normal University		平13. 11. 6 Nov. 6, 2001	
ハルビン工業大学 Harbin Institute of Technology		平13. 11. 12 Nov. 12, 2001	
華東理工大学 East China University of Science and Technology		平15. 4. 1 Apr. 1, 2003	
浙江理工大学 Zhejiang Sci-Tech University		平16. 9. 6 Sep. 6, 2004	
西南政法大学 Southwest University of Political Science and Law		平19. 10. 31 Oct. 31, 2007	
浙江科技学院 Zhejiang University of Science and Technology		平19. 12. 25 Dec. 25, 2007	
遼寧大学 Liaoning University		平20. 4. 30 Apr. 30, 2008	
台湾 Republic of China, Taiwan		輔仁カトリック大学 Fujen Catholic University	平13. 8. 9 Aug. 9, 2001
		国立政治大学 National Chengchi University	平16. 9. 13 Sep. 13, 2004
		国立中興大学 National Chung Hsing University	平16. 9. 14 Sep. 14, 2004
	国立台北大学 National Taipei University	平17. 10. 6 Oct. 6, 2005	
	国立東華大学 National Dong Hwa University	平18. 6. 30 Jun. 30, 2006	
	元培科技大学 Yuanpei University	平19. 7. 6 Jul. 6, 2007	
	国立連合大学 National United University	平20. 8. 8 Aug. 8, 2008	
	文藻外語学院 Wenzao Ursuline College of Language	平21. 9. 4 Sep. 4, 2009	



ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Vietnam	ハノイ農業大学 Hanoi University of Agriculture	平12. 12. 7 Dec. 7, 2000	
	ノンラム大学 Nong Lam University	平18. 11. 9 Nov. 9, 2006	
	ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学 University of Language and International Studies-Vietnam National University, Hanoi	平19. 8. 6 Aug. 6, 2007	
	ビン大学 Vinh University	平23. 2. 21 Feb. 21, 2011	
	ベトナム国家大学ハノイ校自然科学大学 University of Science-Vietnam National University, Hanoi	平24. 3. 13 Mar. 21, 2012	
	ベトナム国家大学ハノイ校工科大学 University of Engineering and Technology-Vietnam National University, Hanoi	平24. 3. 13 Mar. 21, 2012	
	アンザン大学 An Giang University	平25. 3. 11 Mar. 11, 2013	
	カントー大学 Can Tho University	平28. 8. 21 Aug. 21, 2016	
	カンボジア王国 Kingdom of Cambodia	プノンベン王立法経大学 Royal University of Law and Economics	平19. 8. 24 Aug. 24, 2007
		王立農業大学 Royal University of Agriculture	平19. 11. 21 Nov. 21, 2007
王立プノンベン大学 Royal University of Phnom Penh		平24. 11. 30 Nov. 30, 2012	
ラオス人民民主共和国 Lao People's Democratic Republic	ラオス国立大学 National University of Laos	平22. 1. 26 Jan. 26, 2010	
タイ王国 Kingdom of Thailand	カセサート大学 Kasetsart University	平8. 12. 6 Dec. 6, 1996	
	コンケン大学 Khon Kaen University	平10. 9. 28 Sep. 28, 1998	
	チェンマイ大学 Chiang Mai University	平17. 9. 9 Sep. 9, 2005	
	アジア工科大学 Asian Institute of Technology	平19. 11. 21 Nov. 21, 2007	
	モンクット王ラカバン工科大学 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	平20. 1. 3 Jan. 3, 2008	
	タマサート大学 Thammasat University	平25. 2. 13 Feb. 13, 2013	
	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	ハサヌディン大学 Hasanuddin University	平13. 3. 9 Mar. 9, 2001
ガジャマダ大学 Gadjah Mada University		平13. 11. 1 Nov. 1, 2001	
サムラツランギ大学 Sam Ratulangi University		平14. 9. 13 Sep. 13, 2002	
リアウイスラム大学 Islamic University of Riau		平15. 7. 2 Jul. 2, 2003	
スリビジャヤ大学 Sriwijaya University		平19. 6. 11 Jun. 11, 2007	
ダルマプルサダ大学 Darma Persada University		平21. 9. 4 Sep. 4, 2009	
セベラスマレット大学 Sebelas Maret University		平23. 3. 28 Mar. 28, 2011	
ジュアング大学 Djuanda University		平23. 7. 15 Jul. 15, 2011	
マラン国立大学 State University of Malang		平23. 12. 7 Dec. 7, 2011	
ボゴール農業大学 Bogor Agricultural University		平23. 12. 27 Dec. 27, 2011	
ジャカルタ国立大学 State University of Jakarta		平26. 2. 11 Feb. 11, 2014	
ブラウイジャヤ大学 University of Brawijaya		平26. 4. 14 Apr. 14, 2014	
バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh		バングラデシュ工科大学 Bangladesh University of Engineering and Technology	平13. 4. 27 Apr. 27, 2001
		ラジャヒ大学 Rajshahi University	平15. 5. 18 May. 18, 2003
		バングラデシュ農科大学 Bangladesh Agricultural University	平16. 8. 28 Aug. 28, 2004
		ジャハンギールナガル大学 Jahangirnagar University	平22. 7. 26 Jul. 26, 2010

バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	チッタゴン工科大学 Chittagong University of Engineering	平22. 9. 30 Sep. 30, 2010
	ダッカ工科大学 Dhaka University of Engineering and Technology	平25. 2. 20 Feb. 20, 2013
スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	ペラデニヤ大学 University of Peradeniya	平11. 11. 30 Nov. 30, 1999
パキスタン・イスラム共和国 The Islamic Republic of Pakistan	コハート科学技術大学 Kohat University of Science and Technology	平19. 4. 27 Apr. 27, 2007
	ペシャワール大学 University of Peshawar	平19. 11. 10 Nov. 10, 2007
英国 United Kingdom	グラスゴー大学 University of Glasgow	平10. 7. 17 Jul. 17, 1998
ルーマニア Rumania	アレクサンドルイオンクザ大学 Alexandru Ioan Cuza University	平13. 9. 11 Sep. 11, 2001
フランス共和国 French Republic	ブルゴーニュ大学 L'Universite de Bourgogne	平15. 7. 1 Jul. 1, 2003
	オルレアン大学 L'Universite d'Orleans	平17. 3. 31 Mar. 31, 2005
	バイオ産業大学 School of Industrial Biology	平29. 11. 6 Nov. 6, 2017
ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germany	ブルク・ギービヒェンシュタイン芸術デザイン大学ハレ Burg Giebichenstein University of Art and Design Hale	平29. 3. 30 Mar. 30, 2017
オランダ王国 the Netherlands	デザインアカデミーアイントホーフェン Design Academy Eindhoven	平28. 10. 19 Oct. 19, 2016
フィンランド共和国 Republic of Finland	ユバスキュラ大学 University of Jyvaskyula	平25. 11. 8 Nov. 8, 2013
ポーランド共和国 Republic of Poland	ルブリン工科大学 Lublin University of Technology	平18. 3. 3 Mar. 3, 2006
リトアニア共和国 Republic of Lithuania	ヴィタウタスマグヌス大学 Vytautas Magnus University	平25. 8. 26 Aug. 26, 2013
アメリカ合衆国 United States of America	アンダーソン大学 Anderson University	昭53. 12. 27 Dec. 27, 1978
	カリフォルニア大学デイビス校 University of California, Davis	平9. 7. 24 Jul. 24, 1997
	パシフィック大学 Pacific University	平20. 2. 29 Feb. 29, 2008
	スリッパリーロック大学 Slippery Rock University	平24. 4. 4 Apr. 4, 2012
カナダ Canada	マニトバ大学 University of Manitoba	平17. 8. 8 Aug. 8, 2005
	ウイルフリッド・ロリエ大学 Wilfrid Laurier University	平22. 7. 13 Jul. 13, 2010
オーストラリア連邦 Australia	ラトローブ大学 La Trobe University	平15. 7. 31 Jul. 31, 2003
	シドニー工科大学 University of Technology, Sydney	平24. 8. 28 Aug. 28, 2012

## 資料5：平成29年度 国際交流推進センター関連行事

H29	佐賀大学の派遣・教育・支援	留学生に対する教育・支援	国際交流推進事業
4月	17日 世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業学内説明会	4日 新入留学生オリエンテーション 4日 日本語コース・プレースメントテスト 6日 SPACE-E/Jオリエンテーション 15日 新入留学生研修旅行（～16日まで） 20日 留学生健康診断 29日 SPACE-E フィールドワーク（福岡市、太宰府市）	24日 第1回国際交流推進センター運営委員会
5月			2日 第2回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 31日 第3回国際交流推進センター運営委員会
6月		1日 消防訓練（楠葉寮・国際交流会館A・B） 3日 SPACE-J・日研生フィールドワーク（唐津市） 10日 鹿島ガタリンピック&ホームステイ（～11日まで）	7日 第4回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 27日 第5回国際交流推進センター運営委員会 30日 国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会
7月	5日 香港中文大学サマープログラム（～14日） 8日 世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業事前オリエンテーション 25日 世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業派遣留学生壮行会	1日 SPACE-E フィールドワーク（朝倉市） 8日 SPACE-J・日研生フィールドワーク（武雄市）	25日 佐賀地域留学生等交流推進協議会総会（佐賀地域留学生等交流推進協議会主催） 27日 第6回国際交流推進センター運営委員会
8月	5日 シドニー工科大学プログラム（オーストラリア）（～9/10まで） 6日 釜慶大学校プログラム（韓国）（～19日まで） 6日 大邱大学校プログラム（韓国）（～26日まで） 6日 北京工業大学プログラム（中国）（～26日まで） 7日 国立中興大学プログラム（台湾）（～26日まで） 9日 ガジャマダ大学 DREaM プログラム（インドネシア）（～29日まで） 8日 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム学内説明会	6日 栄の国まつり参加（栄の国まつり振興会主催） 8日 SPACE・日本語・日本文化研修プログラム終了式	
9月		28日 新入留学生オリエンテーション、SPACE-Jオリエンテーション 29日 SPACE-E オリエンテーション	5日 第7回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 25日 第8回国際交流推進センター運営委員会
10月		14日 新入留学生研修旅行（～15日 鹿島市、嬉野市） 16日 留学生健康診断（～17日）	12日 第9回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 30日 第10回国際交流推進センター運営委員会
11月	21日 佐賀大学オータムプログラム（～12/7まで）	4日 SPACE-E フィールドワーク（熊本市） 18日 SPACE-J・日研生フィールドワーク（有田町） 23日 2017さがを創る大交流会（さが地方創生人材育成・活用推進協議会主催）	9日 国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会 10日 全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議 14日 第11回国際交流推進センター運営委員会（メール会議）
12月	21日 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム学内説明会	13日 留学生対象の被爆体験講話	1日 第12回国際交流推進センター運営委員会 9日 佐賀大学海外版ホームカミングデー in 北京 25日 第13回国際交流推進センター運営委員会
1月			11日 第14回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 19日 第15回国際交流推進センター運営委員会（メール会議） 31日 第16回国際交流推進センター運営委員会
2月	24日 国立東華大学プログラム（台湾）（～3/24まで） 25日 香港中文大学学生交流プログラム（中国）（～3/6まで）	15日 SPACE-E フィールドワーク（小城市） 16日 SPACE 終了式	
3月	3日 浙江理工大学プログラム（中国）（～31日まで） 7日 フィールドスタディ in チェンマイ（タイ）（～21日まで） 19日 世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業成果報告会		1日 第17回国際交流推進センター運営委員会 26日 第18回国際交流推進センター運営委員会

## 資料6：国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター規則

(平成23年9月28日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第11条の7第2項の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、佐賀大学の部局及び地域社会と連携し一体となって、海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 前条に掲げる目的を達成するため、センターは次に掲げる業務を行う。

- (1) 国際交流事業の企画・実施に関すること。
- (2) 海外教育研究機関等との学生交流に関すること。
- (3) 海外教育研究機関等との学術研究交流に関すること。
- (4) 地域の国際連携に関すること。
- (5) その他本学の国際交流の推進に必要なこと。

2 前項の業務に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任の教員
- (4) 併任の教員
- (5) 契約コーディネーター
- (6) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、理事のうち学長が指名した者をもって充てる。

2 センター長は、本法人の国際交流事業をつかさどり、センター所属の職員を統督する。

3 センター長の任期は、当該理事の任期とし、再任を妨げない。

(副センター長)

第6条 副センター長は、本法人の専任の教授のうちからセンター長が指名した者をもって充てる。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を掌理する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副センター長を指名したセンター長の任期を超えることができない。



4 副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(国際コーディネーター)

第7条 センターに、国際コーディネーターを置き、センターの専任の教員及び契約コーディネーターをもって充てる。

2 国際コーディネーターは、センター長及び副センター長を補佐し、センターの業務を横断的かつ包括的に処理する。

(専任の教員及び契約コーディネーターの選考)

第8条 専任の教員及び契約コーディネーターの選考は、第11条に定める運営委員会の議を経て、学長が行う。

(併任の教員)

第9条 併任の教員は、全学教育機構所属の教員のうちから、全学教育機構長の推薦に基づき、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

2 併任の教員は、国際コーディネーターと協働して、センターの業務を処理する。

3 併任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(国際マネージャー)

第10条 センターに国際マネージャーを置き、学術研究協力部国際課長をもって充てる。

2 国際マネージャーは、国際コーディネーターと協働してセンターの業務を処理する。

(運営委員会)

第11条 センターに、国立大学法人佐賀大学国際交流推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 本法人の国際戦略に関する事項
- (2) 本法人の中期目標・中期計画のうち、国際交流の推進に関する事項
- (3) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (4) センターの人事に関する事項
- (5) 本法人の国際化に係る具体的施策の策定及び実施に関する事項
- (6) センターの予算及び決算に関する事項
- (7) その他センターの管理運営に関する重要事項

(組織)

第12条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学部（理工学部を除く。）から選出された教員 各1人
- (4) 工学系研究科から選出された教員 1人
- (5) 全学教育機構から選出された教員 3人
- (6) 専任の教員（国際コーディネーター）

- (7) 学術研究協力部長
  - (8) 学術研究協力部国際課長（国際マネージャー）
  - (9) 契約コーディネーター（国際コーディネーター）
- 2 前項第3号から第5号までに掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第3号から第5号までに掲げる委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（議長）

第13条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

（議事）

第14条 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教員の人事に関する事項及び特に重要な事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

（意見の聴取）

第15条 運営委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（審査会）

第16条 運営委員会に、国際交流事業の選考を行うため、審査会を置く。

- 2 審査会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第17条 センター及び運営委員会の事務は、各部局及び事務局関係各課の協力を得て、学術研究協力部国際課が行う。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項については、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

附 則（平成24年3月28日改正）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に選出される第15条第1項第8号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則（平成26年3月26日改正）

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月26日改正）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月25日改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月22日改正）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

### 資料7：国際交流推進センター運営委員会名簿

（平成29年4月1日現在）

国際交流推進センター長	理 事	滝 澤 登
国際交流推進副センター長	教 授	寺 本 憲 功
国際コーディネーター	准教授	山 田 直 子
国際コーディネーター	准教授	新 美 達 也
国際コーディネーター	契約コーディネーター	山 田 佳 奈 美
国際マネージャー	課 長	成 瀬 雅 也

### 国際交流推進センター運営委員会委員

国際交流推進センター	センター長	理 事	滝 澤 登
	副センター長	教 授	寺 本 憲 功
	国際コーディネーター	准教授	山 田 直 子
	国際コーディネーター	准教授	新 美 達 也
	国際コーディネーター	契約コーディネーター	山 田 佳 奈 美
	国際マネージャー	課 長	成 瀬 雅 也
学術研究協力部	部 長	市 山 郁 生	
教育学部	教 授	角 和 博	
芸術地域デザイン学部	教 授	西 島 博 樹	
経済学部	教 授	サーリヤ・ディ・シルバ	
医学部	教 授	青 木 洋 介	
工学系研究科	准教授	カーン・エムディ・タウヒド	
農学部	教 授	鄭 紹 輝	
全学教育機構	准教授	布 尾 勝 一 郎	
	准教授	中 山 亜 紀 子	
	准教授	江 口 誠	

## 大学情報

### 佐賀大学国際交流推進センター

Center for promotion of International Exchange Saga University

840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1 佐賀大学 国際交流推進センター

電話：0952-28-8203

Fax：0952-28-8819

<http://www.irdc.saga-u.ac.jp>



